

The EIKO ALUMNI

Vol. 98
October 2022

[特集1]

フォス初代校長特別展 全記録

contents

ご挨拶	2
[特集1]フォス初代校長特別展	4
[特集2]栄光とミツキチ	14
OBだより	16
学園だより	24
同窓会information	38



同窓会会長よりご挨拶

日常化？コロナ疲れ？

2019年度末に報告されてから、瞬く間に世界中にパンデミックが広がった新型コロナウイルス感染症は、ウイルスの度重なる変異もあり未だ衰えず、私たちの生活に大きな影響を及ぼしています。マスクを着用するのが日常になったものの、特に夏のマスクは鬱陶しく、熱中症のリスクも高まるので、“密”になるシーン以外では、マスクをしないのもOKとのこと。とはいえ、第7波のコロナ陽性者数は過去最多となっています。ワクチン接種が進み、重症化するリスクは低減していると言われてはいますが、ウイルスも変異しますし…。

まだまだ“これさえやっておけば”的な“特効薬”は無いように感じます。ウクライナや台湾の情勢、物価の高騰などもあり、早く、少しでも平穏、平和な世の中になることを祈るばかりです。

2022年の同窓会事業

コロナ禍下での2022年度定期総会は、栄光祭の1週間後、5月21日(土)の午後にZoom&リアルで行いました。昨年度同様、各委員の皆さまに事前に総会議案書(案)と議決権行使書を郵送し、各議案について可否を书面審議していただきました。総会の詳細は、本ALUMNIや同窓会ホームページに掲載していますので、ご覧ください。

2022年度は、現体制2年目ということもあり、昨年度から検討を進めている課題が少しずつ解決に向かい、結実してきていると捉えています。事業や広報は、執行部の若返りと併せ、新たな視点で諸事業を進め、総務は同窓会事業の下支え、地道な環境整備に積極的に取り組んでいます。本会報にも掲載した“フォス初代校長先生特別展”や“栄光ヒミツキチ”、会報ALUMNIの全面リニューアル、アロイジオ会館と同窓会事務局のWeb環境の整備、充実などが概ね順調に進められています。

“フォス初代校長先生特別展”

コロナ禍の影響で、重ねて延期していた“フォス初代校長先生特別展”ですが、学園の全面的なご協力により、ようやく3年越しでリアル開催することが出来ました。学園アーカイブの整理に協力する中でフォス先生に思いを馳せ、フォス先生ご帰天30年の節目に特別展を行おうとしたのですが、コロナ禍で栄光祭“OBの部屋ALUMNI”が実施出来ず、特別展も2年間開催を見送っていました。30期は

フォス校長先生が授業をしてくださった最後の期であり個人的にも、また同窓会として次代へ繋ぐためにも、何としても開催したいという思いでした。

青木副会長と大須賀事業部長が中心となり膨大なアーカイブ資料から厳選した展示の数々。もちろん全てを展示出来た訳ではありませんが、来場されたほぼすべての方に“良かった”と言っていた内容です。コロナ前の企画時にイメージしたサロンのような雰囲気の出張会場は叶いませんでしたが、今、出来ることを最大限行ったつもりです。本誌に特集しましたので、お楽しみいただければ幸いです。

財務検討特別委員会の設置

今期の同窓会事業は、2019年度に設置し検討を進め、ALUMNI93号から96号にかけて、また2021年度定期総会でも報告させていただいた“栄光学園同窓会のビジョン検討”特別委員会の内容をベースに進めているものです。この特別委員会では、同窓会の未来のあるべき姿を、次代を担う会員が中心となって検討しましたが、その中では、あえて“財政”的な検討を先送りしました。“お金”を併せて検討することで、新たな視点、アイデアが制約されることを避けるためでしたが、やはり同窓会の持続性を検討するためには、財務の検討を避けて通れません。そこで今年度、新たに“財務検討特別委員会”を設置し、同窓会事業と会費のあり方など、財務、財政について検討を進めることとしました。

“人を繋ぐ、人が繋がる”同窓会に

これまで変わらず、“人を繋ぐ、人が繋がる同窓会”のコンセプト、スローガンを掲げ、事業を進めてきました。withコロナと言うべきなのでしょうが、最近ではリアルな繋がり、イベントなども少しずつ増えてきましたが、2022年度も形に囚われず、全ての世代、全ての会員が、繋がりたいと思えば、どこかで、何らかの形でいつでも繋がることのできる同窓会に近付けていきたいと考えております。

母校、後援会、姉妹校同窓会とも協力、協調しながら、執行部一同、頑張っておりますので、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。



栄光学園同窓会会長 山田宏幸 (30期)

24期の長屋忠と申します。現在65歳で、大学卒業後、60歳まで証券会社に勤務しておりましたが、60歳から事務室の責任者をしております。2015年の秋頃、栄光学園が上智学院と法人合併を行う前、その1、2年後の事務室の責任者として、卒業生で60歳前後の人間の募集があり、声をかけていただき、当時の萱場理事長(現上智学院監事)、李理事(現上智学院中等教育担当理事)、望月校長、林副校長(当時)と面接し、採用していただき、2017年7月から勤務しています。法人合併後の事務室に5年勤務した感想等を脈絡もなく、断片的ではありますが、お伝えします。

事務室の特徴的な仕事

2016年にイエズス会が運営する上智大学、4校の中高(栄光、六甲、広島、上智福岡)は法人合併しました。基本的には各校は、学校の運営、及び財務・会計は自主独立となっており、現時点においては、各校の独立性は保たれています。ただ、学校法人としては、上智学院となり、重要事項(一定金額以上の支出、就業規則等の制定・改正、重要な人事等)は上智学院の理事会の決定事項となります。そのため、事務室としても、上智大学の事務局との連携が必要です。事務室の業務として、学校事務、施設・設備管理、財務・会計等があります。学校運営を永続的に円滑に行うため、事務室として日々業務を行っていますが、この中で、栄光ならではの業務に、施設・設備の維持管理があります。

恵まれた自然環境の中で、広大な校地、立派な運動グラウンド(サッカー場、野球場、300メートルトラック、テニスコート7面等)、2棟の体育館、新校舎、大講堂、聖堂棟等を有しています。これ自体は大変素晴らしいことです。ただ、その維持費は他校と比較し、多額です。また、校地が広い故に、崖地も多く、崖地が近隣周辺に迷惑をかけないための措置、栄光坂の栄光学園所有ののり面のフェンスの維持(鎌倉市と交渉し、行わせました)等、の業務もあります。

卒業生として感じる違い、印象に残ること

昔の卒業生として、今の学校の日常に接している中で、個人的に「昔と違うなあ」と感じるのと「印象に残ること」を順不同で列挙します。だからどうだということではありませんが、60歳代の卒業生の方々には「へー」と感じていただけることがあるかもしれません。

- ・神父様はいません、修道院にはどなたもいません、空き家です。先生方が希望する生徒と学年ごとに聖書研究会をしています。
- ・海の家はありません。
- ・中間体操は着衣(但し、シャツ1枚)可です。
- ・制服の種類が増えていますが、楽な服装が認められています。
- ・先生方が部活動の指導に深くかかわっています。
- ・部活動で文化部が活躍し、全国大会進出、全国制覇もしています(科学の甲子園、英語ディベート大会、囲碁将棋、クイズ等)。
- ・東京から通学する生徒が100名以上います(昔は原則ゼロ人)。
- ・創立記念祭の実行委員会メンバーに100人以上参加しています。
- ・スマホ・ゲーム依存症とならないための注意を喚起するための専門の医師による授業があり、SNSの怖さを知るための外部講師による講演があります。
- ・カウンセラーの先生が定期的に来校しご父母の相談にのっています。
- ・海外姉妹校(ボストン、フィリピン)との交流があります。
- ・海外の大学に進学する生徒がおり、海外の大学への進学のためのアドバイザーがいます。
- ・父兄と連絡の一部にWEBが活用されています。
- ・第二体育館があります。
- ・新校舎は2階建て、職員室が解放的なつくりとなっています。
- ・正門に守衛さんが常時います。
- ・校内に飲料水の自動販売機があります。
- ・図書館に卒業生の著作のコーナーがあります。
- ・数多くの卒業生の方々の協力によりOBゼミが大変充実しています。

最後に

今の学校に対する感想は、「熱心な先生方の指導のもと、生徒さんは非常に自由に伸び伸びと学校生活を送っている」ということです。そうした中、課題としては、

1. イエズス会が運営する学校として、神父様が常駐しない状態で、キリスト教の信仰をどう伝えていくか
2. 生徒に恵まれた環境、施設・設備を提供し続けるための財務的基盤をどう充実させるか

ということがあると思います。1については、イエズス会の神父様、先生方が取り組まれています。2については、事務室として、施設・設備の維持管理の中長期計画を策定し、実施しています。また財務強化の一環として、昨年「未来EiKO募金」をスタートしました。卒業生の皆様にはご協力いただき、大変助かっております。ありがとうございます。

今年65歳となり、来年3月には定年退職となります。母校に勤務できたことは大きな恵みであり、関係者の皆様には大変感謝しております。

栄光学園中学高等学校 事務統括 長屋 忠(24期)

フォス初代校長特別展全記録

同窓会事業部・総務部



5月14日(土)、15日(日)の両日、栄光祭に合わせて開催しました。

コロナ禍で栄光祭の入場が制限される中、特別展には2日間で750人超の方にご来場いただきました。

また、5月21日(土)の定期総会当日もOBを対象に開催し、120人超の会員にご来場いただきました。



私の生い立ち (1977年:フォス先生のスピーチから)

短時間で、自分のおくってきた人生について語ることは、簡単なことではありません。私が歩んできた道を考えてみると、それがとっても複雑なもののように見えるが、その進路を決めてくれたものと言いましょか、或いは、私の人生を実に楽しくしてくれたものと言いましょか、それらの道しるべとなつてものを、いくつか紹介してみます。

まずは、私の父親の役割が、とりわけ大きかつたということです。父は、学歴の無い普通の労働者であつたが、人生の案内役としては、実にすばらしかつた。ある日突然父が言ったのです。「中学生になったら、もうお前を教えることができない。自分でやるほかはない」。長く鍛冶屋の仕事をやつてきた父は、私によく次のことを聞かせてくれたのです。「人間は誰でも自分の幸福の鍛冶屋である。だから鉄は熱いうちに打て」。結局、自力でやるんだ、という厳しい注文であつた。「勉強せよ。もっと点を上げろ」と言われた覚えはありません。たまに言われたことは、勉強が辛いなら石炭を掘ることだ、ということだけでした。そして鍛冶屋から石炭の炭坑夫に転職してきた父の、この言葉は、口先だけの言葉ではないということ、私はよく承知していました。父と、かれの炭坑夫の同僚の苛酷な労働、そして、その大変な苦労にもかかわらず、彼の懸命に生きていく姿を見て、勉強の意義について迷つたり、勉強の辛さに愚痴をこぼしたり、自分の怠け癖を自己弁護したりすることは、正に自分自身を甘やかしているに過ぎないことだと、しみじみ感じたのです。仕事というものは、手が汚くなるような労働であっても尊いものです。何をやるか、それはたいした問題ではない。いかに、その何をやっているのか、それによって人間の値打ちが現れてくるのです。

もう一つ、親父に心から感謝していることは、父が、私の職業選択と言いましょか、進路決定と言いましょか、その時に示してくれた、理解や温かい心です。私は理科系の学校に入学しておつたのですが、教会の神父になりたいと思つて、文科系に移つたのです。どうして神父になりたかつたかという、私は、若い時に、あるカトリック青少年団に入って、良く活躍した。そして後輩のためにも、リーダーとして努めたのです。それがきっかけになつたのです。ある日、びくびくしながら、父に、私の心からの希望を漏らしました。父にとって、それ程のショックはなかつたようですが、予測した通りの、何日間かにわたつての、長い議論になつた。そして議論になかなか負けない父とのやり取りは、実にきつた。「人のために尽くす、それは素晴らしいことです。お父さんもそう思つていますよ。でも、理想と現実とは違うものだよ」と言つて、父は哲学の、死の、神学の長い勉強の辛さ、他の職業の価値や魅力、実世界の有り様と、それに対する適応、自分の家庭を作れない、神父の生活の寂しさ、そして更に、神父が断念しなければならぬ、色々な趣味や楽しみ、あらゆる観点から、父が私を攻めてき

たのです。もうとてもかなわないと思うほどでした。しかし、無理やりに、息子を自分の考えに引きずりこもうとはしなかつた。「どうしても、その様な道を選びたいならば選んでもいい、でも開いた眼でそれに乗り出すのだ」。それは、父の議論の狙いであつた。

私はドイツの若い少年のことを考えて、神父になろうと思つたのですが、人生というものは、必ずしも思う通りにはいかない。私の夢も、思う通りに実現されなかつた。私は、高等学校を卒業した後、すぐ、イエズス会という、カトリック教会の或る修道会に、入会しました。諸君は、おそらく、16世紀に日本に来られた、フランシスコ・ザビエルのような名前を、歴史の授業で習つたと思います。ザビエルはイエズス会の人であつた。そして1549年に日本へ派遣されたのです。私の先輩なのです。そして私も、イエズス会に入つてから間もなく日本へ行つてはどうかと、突然言われたのです。そのことは、確かに私の計画には入つていなかった。本当のことを言うと、私の心の中は、まったく混乱してしまつた。

人生には、その様な、思いがけない出来事があるのです。「つらかつたでしょう」とよく言われたのです。実際はそうではなかつた。そして、一回も後悔したことがない。日本での仕事に関して、私は勿論、いろいろ夢があつたのです。でも、中、高等学校の先生になりたいような夢は、一回も見たことが無い。実際は、大学の教授になるということが、決まつておつたのです。しかし戦争が終わつて、また、運命のいたずらの様な事があつた。「校長になりなさい」という命令を受けた。「まさかつ」と思つたが、「ほかの人がいないから」と言われて、大学の教授の王座から降りて、ちっちゃい中学のいたずら坊主、及び、私の強い高校生を相手にして、長い30年間をがんばつてきたのです。「つらかつたでしょう」と、また言われたのです。そうでもなかつた。実は、昔の夢と大して違つていないような仕事であつた。そして、本当に楽しかつた。色々な心配や苦労にもかかわらず、慰めとか、力とか、原動力とかになつたのは、若い時から身につけてきた人生観だつた。

何をやるか、それは大した問題ではない。その何を、如何にするのか、それによつて、人間の価値、そして、仕事に対する満足感を、そして、隣人や社会に対する貢献も、決まつてくるのです。人間というのは狭い人であつてはいけぬ。若い世代に願ひたいことは、高い理想に導かれて、次の時代の建設、もしくは開拓に、参加できる人間になることです。と申しますと、私は歴史の表舞台に立つて、観衆のやんやの喝采を浴びる人を考えていない。私の考えているのは、それぞれの立場において、自己の能力、そして特に、自己の人格をもつて、この社会の中を、すこしでも良くすることです。



栄光学園の源流とフォス先生

フォス先生の栄光学園の創立にかける信念。教育にかける情熱。学生に注いだ愛情。記録された言葉に、フォス先生と栄光の源流を感じます。

① 廃墟に立ち尽くした日

1947年10月21日は、私にとって生涯忘れることの出来ない一日である。その日、私は栄光学園の校地として予定されていた横須賀市田浦の土地を、初めて見たのである。そこは、旧軍港に面し、周囲を小さな山に囲まれたところで、番地もなく、かつては機密のヴェールに包まれた旧海軍の施設跡であった。「跡」と言ったが、最初の印象を率直に述べれば、修羅の巷を偲ばせる廃墟にほかならないものであった。そのひどい惨害の原因は、終戦時の自暴自棄の破壊にもあったであろうが、占領米兵の乱暴や、「もの」の欠乏で切羽詰まった人達のちよろまかしによっても引き起こされたに違いない。なんともショッキングな有様であった。その日の天気も私のいら立ちを和らげなかった。雨降りというほどではなかったが、朝霧の立ち込めた光景は、私の心に暗い影を落とした。

その視察の際の驚き！ 今度の仕事は大変だろうと想像してはいたが、しかし、新しい学校の誕生地として選ばれた場所の荒れ果てた状態は、想像を絶するものだったのである。無残な光景はなんと形容したらよいのであろうか。トタンの横っ腹をえぐり取られた鉄鋼所、真っ黒に塗られた鉄筋建築、横倒しになり押しつぶされた木造家屋……。暗緑色の防空偽装をされたような外観ではあるが、建物の内部を覗いてみると、更にひどい荒らされようである。

「日本の父へ再び」からの抜粋



② デッカー大佐との出会い

どれほど長く立ち続けていたか覚えていない。朝から立ちこめていた霧が小雨に変わったという理由もあっただろうが、もう東京へ帰ろうと思った時、突然、一台のジープが、たまり水を跳ね上げながら飛ぶようなスピードで走ってきたかと思うと、私の側にスーッと止まった。そのジープから降りてきたのは、中年のアメリカ軍人であった。レインコートにも作業帽にも階級章が見当たらなかったが、米海軍の将校らしかった。彼は私の顔をもの珍しそうにのぞいて、指を軽く軍帽にあてた。私は、自分と同じ様な物好きがまた一人登場した、というくらいにしか考えていなかったのもので、

自己紹介もせず、ざっくばらんに話しかけた。

— ねえ、ひどい、まったくひどいことだ。破滅の至りだなあ。

— あなたが、ここを譲り受けられる方ですか。

— ゆずりうけるですって？

戦勝国の人であり、軍人であり、占領軍の位の高い将校でもあるデッカーさんの言葉は、不思議な説得力があった。私のわだかまりはとけそうになった。軍人らしい率直な言葉であった。私は、大佐の雄弁に負けそうになった。反発しようと思ったが、できなかった。あの、ひどい廃墟を見た時の、まったく打ちひしがれたもの悲しい気持ち拭い去られて行くのを感じたのである。

— 冗談はさておいて、学校の内側は、それは言うまでもなく神父さんの一番大事なお仕事です。中身を充実したものにすることで。そうです、それをどンドンおやりなさい。外側は、蔭ながらできる限り私がお手伝いします。それでいいじゃありませんか。二人でやれば、きっとうまくいきますよ。

それがデッカー大佐との最初の出会いであった。

「日本の父へ再び」からの抜粋

デッカー大佐の自己流ともいえる「教育に関する占領政策」の要点は次のようなものであった。日本の再建は眼前に迫った問題であり、単に占領軍の指示とか援助とかにすがってはいならない。そんな敗北感や依頼心は一日も早く捨てて、国民が自力でその改善をやり遂げるほかない。この新しい日本の建設の決め手は、他ならぬ教育だけである。いうまでもなく、それは戦前の軍国主義や国粹主義に汚染された教育ではない。そうした欠点を洗い流した教育。さらに、過度な物質欲や実用主義を越えた教育、すなわち、精神的、道徳的、宗教的なものを第一の狙いとした、真の人間を育てていく教育である。このような教育を施さない限り、いかに政府やマスコミが民主主義や平和をとんでも、きれいごとにも終わる。今言ったような教育は、われわれ軍人の力の及ぶところではない。もちろん、私にもできないことである。しかし、横須賀の旧海軍基地には、土地と、校舎として利用できるような建物がたくさんあるから、それらの一部を提供して、四つぐらいの学校を設立したらどうか、と前から考えていた。あなたに譲り渡したいこの広いグラウンドと施設は、その四つのうちの一つである。それらの学校は、新教育のモデルスクールとして、他の学校にもよい影響を及ぼし得るものとなるだろう。日本の社会の回復や改善にも貢献しうる教育施設にしたいものである。



③わが校はエリートを養成します

わが校はエリートを養成します。おたくの学校の一番、二番の生徒だけをよこしてください。(栄光の開学を控え、生徒募集のために訪問した神奈川県下の小学校の校長室で)

将来の日本が先進国の仲間になくともよいという結論を出さない限り、エリート教育を否定することは出来ない。天然資源の無い日本にとっては、国民の能力、勤勉さが財産ですよ。しかし今の「エリート教育」のように知育優先、オーバーに言うと知育のみ、それも試験向きのものにとどまっているのではなく、知育にプラス何よりも人間教育を両立させなくてははいけません。それが本当の、日本にとって必要なエリートの条件です。そしてそれが両立できなければ、知育でなくまずは徳育を考えるのが教育者の使命であるばかりでなく、義務です。

日本で言われる「エリート」という言葉は、まったく日本独特の概念で諸外国にはありません。人間として最も大切な要素は抜きにして、なにがなんでも「エリート」的一流コースをたどりさえすれば「エリート」と呼び、併せて人間として立派だと見なす。本人自らもそういう意識を持っている。これに対してヨーロッパでは、まず、どんな分野の仕事でもいい、衆に抜きんでた真の実力を持っていて、同時に人間的にも優れた人物であり、それによって社会のために大きく貢献している人達です。これは中世ヨーロッパにおけるエリート観に根差していて、「高い身分の者は、人間として道徳的な責任と義務が伴う。自分のためだけでなく、常に皆のために尽くす。皆と一緒に人間として正しい生活をする」という考え方です。いま日本で「エリート」と呼ばれている人達の多くが一步日本を出た途端、エリートでもなんでもなくなるんですよ。学力だけはあっても、人間としての条件を満たしていない。いわば、広い意味で「自分のことだけしか考えていない」。自己中心的で他に与えるものがないんです。

「新潮45+」1990年5月号から



④悪名高い「地獄行き」

ある日、授業が終わったとたん、校長室前の廊下で、私がとびあがるほど騒いでいる生徒がいた。何とかしなければと思って、私はドアを開けて廊下に出て行った。

—何をしているの。やめなさい。しょうがないね、君たちは。校長室に入りなさい、すぐに。

—ああ、また地獄行きか。

と溜息をついて、おどおどしながら校長室に入ってきたのは、六人の高二の生徒だった。信夫君はその中の一人であった。私はそれほど小柄ではないが、彼らはみな私より5,6センチは高かった。私は一つの椅子を部屋の真ん中に置き、ゆっくりと靴を脱いで椅子にのぼった。そして、肩をいからせ、目をいからせて、高いところから彼らをにらみつけてやった。生徒の驚いた顔。でも、次の瞬間、彼らは笑いかみ殺すことが出来なかった。

—笑うんじゃない。校舎の中で、あんな幼稚な乱暴な騒ぎ方は許さないぞ。君たちに一発やらなければならぬんだ、いくら背が高くても。しかし、下から見上げて君たちをしかつたのでは威厳がなくなるからな。

校長室の中には健康な笑いの渦が巻き、私としては打つべき手を打ち終わった後、お茶を運ばせて“二次会”に移った。質問に答えたり、生徒の苦情を聞いたり、校長の規則や習慣の「耐え難い注文」を説明したり、経験談やユーモアを交えて生徒の要望を攻撃したりして、アツという間に時間が経ってしまった。校長生活の醍醐味ともいべき“一校団欒”の雰囲気であった。

—また君たちをよびます、いつか。

—本当？でも、ふざけないと、先生に忘れられてしまうんじゃないかな？さあ、また騒ぐほかないだろう。校長先生のおもてなしも手厚いからな。

—なにっ、またふざけてやるって？今度はもてなしをもっと厚くするよ！拳骨をやるからね、必ず。背が高くても届くよ。

卒業生たちの懐かしがるあの悪名高い「地獄行き」の思い出の一コマである。元気あふれる、創造力に富んだ生徒が、いたずらするのは、学校生活の常である。それは、生徒の毎日の生活の単調さを和らげる、若々しいエネルギーのはけ口であると同時に、校長にとっては、彼らと、「親しく」接する絶好のチャンスである。

でも、校長室で相手にしていたのは、勿論、いたずらっ子だけではない。成績がさがったもの、努力不足で“中休み”しているもの、何か悩みがあるらしいもの、そして、なんとかしてもっと力を出してほしいもの—とにかく特別接待を必要とするものがいた場合、校長のサインの入った、「地獄からの呼び出し状」を教室へ回して、特定の生徒に校長室への遠足を命じることがよくあった。時間がそれを許す限り。学校創立以来生徒に親しまれてきた恐ろしさや懐かしさを兼ね備えた「地獄行き」という学内流行語の由来はここにある。

校長生活30年の回想(グスタフ・フォス著)から



⑤日本の父親の使命

教育論的に言えば、子供に影響を与える順序は家庭、学校、社会が正しい。しかし、現在はその順番が狂ってしまったようだ。親が協力しない限り、学校は無能である。親が自分では何もしないで、学校や先生の責任を云々するのはおかしいのだ。しかるべき態度の土台になるものが無ければ、先生がいくら努力しても、もう遅すぎる。子供の教育は誕生したその日から始まる。それを親は忘れていて、そうして学校や教育を批判している。

日本では、昔オヤジは大黒柱と言われたでしょう。本当の意味で家族をささえるエコノミストとして、経済的な面だけでなく、家庭を正しく管理することが必要です。父親というのは、毎日、社会生活を体験しており、子どもが価値観を養成するうえで、必要な存在です。父親は、勇気をもって、遠慮なしに子供にぶつかってゆかねばなりません。また父親は、面と向かって息子を論破することもあるでしょうが、後姿でも息子を強引に引っ張ることが出来るのです。

父親は何よりも家庭に関心が強くなければならない。現代日本のオヤジは社会人として実に多忙だ。会社での仕事、出張、残業あるいは付き合いなどで家庭にいる時間が極めて少ない。そういった物理的な不在より、精神的な不在の方が心配である。オヤジは下宿人、夜のお客さんになってはいけない。今日の父親にとってむずかしいことかもしれないが、わが子のため、我が妻のために、オヤジは努力しなければならないので。たとえ不完全であろうと、未経験であろうと、オヤジは子供の最初の教師ではないか。子供の進学先を心配するよりも、子どもと一緒に生活する努力の方が先である。

「新潮45+」1990年5月号から抜粋

父親に求められているのは、どんな理屈をつけられても時流にゆらぐことなく、確かな目標や堅固な志操をもって、人生に立ち向かう姿である。人生の指針となる良識は子供が自分を取り巻く周囲からは得られない。それは「父親自身が、代々相続して行く貴重な遺産として、我が子に与えるべきものであり、子どもにとって、社会にとって、父親としての素晴らしい使命である」と断言したいのである。

「日本の父へ再び」第4章より



⑥ある卒業式

父兄としてあいさつをすることになり、息子の高校の卒業式に出かけることになった。校長はドイツ人。すでに在日25年。60を越しているが、背をまっすぐ伸ばした、みごとな姿勢。そして日本語で、見事な挨拶をした。「いまの日本には、君たちの内部だけでなく、社会のすみずみにまで、甘えが満ちている。甘えは、人間の気力を奪い、人間を滅ぼし、国を滅ぼす」といった趣旨の凛呼とした訓示であった。

在校生送辞と卒業生答辞は、これまた、校長の厳しい訓示とは打って変わった、ユーモアのある伸びやかなものであった。「校長先生の髪の毛の薄さは、6年間変わりませんでした」などと、校長のほとんど髪のない頭のことにも、ふれた。すると、あのいかめしかった校長が、椅子から立ちあがって、ぴょこんと頭をさげて、講堂内に笑いが満ちた。校長と生徒との間には、そうしたやりとりのできる信頼関係と、心のゆとりがあるようであった。式後の茶話会もまた、なごやかな空気で、アメリカ人教師が、「キミタチニ、フサワシイ、ウタヲウタウカラ」と言って、「高校三年生」をうたい、日本人教頭がアコーディオンを弾き、またドイツ民謡などの合唱があった。すると、そのドイツ人老校長が、「ホンモノ言葉デナイト、感情ガデント思ウヨ」と叫んで、改めて、ドイツ語で、その民謡を高らかに歌いなおす一幕もあった。

ドイツを後にして、25年。もちろん、この先の生涯も、この異国の日本で、少年たちを教え続けて終わることであろう。どういう情熱が、どういう使命感が、この老人を支え、そして、はつらつと生かしているのだろうか、私は、胸を打たれる気がした。

茶話会の終わりに、この老校長は、また壇上に立った。すっかり、くつろぎ、緩んだ会場の空気に向かって、しかし、この老校長は、また、激しい気魄で、最後の注意を付け加えるのであった。「どんなことがあろうと、また、どんな程度であろうと、少しでも、社会に貢献する人間となって生き、そして、死ぬ」と。

息子たちは、在学中、長髪などの問題で、ときに、校長の注意をうるさく感じたこともあったようだが、今、学校を去るにあたって、「あの校長は、ほんとに、えらいや。尊敬するよ」としみじみと言う。尊敬に足る人を、一人でも、二人でも多く持つということ、——それは、人生における何よりもの生きる力になることであろう。

東京新聞「随筆」1975年3月11日より抜粋



⑦学校のオヤジ

勿論、校長の生徒に対する指導は、主として、先生方を通しての間接的なものであろう。そして、朝礼や入学式、卒業式などの年間の学校行事の際、学校のオヤジは、適切な訓話を持って、建学精神を説いたり、教え子の考え方や張り合いや実行力を呼び起こしたりして、生徒にあってほしい態度を育てていくことができる。でも、個人対個人の心の触れ合いも校長には期待されている。生徒からも、そして親からも。つまり、学校での管理職というものは、会社や役所などのそれとは違う。校長が管理、経営、人事などを、巧みに、そして、能率的にこなしても、生徒はそれだけでは満足しない。生徒は別の校長観を持っているし、持ちたがっている。校長に、まずは、先生であってほしいと願っている、校長室の前を通るたびに、「不在」の札が掛けてあるのを見て、寂しく感じる生徒は少なくはない。

校長であるだけで何処となく威厳があるが、言うまでもなく、「威ありて、猛からず」、その姿勢こそ肝要である。教育者たる威厳は、若い世代の教育の場である学校において、生徒を畏服させるものではなく、彼らの自己向上を励まし、時たまの失敗を乗り越える勇気と力を育てていくものである。雑事におわれ、心のゆとりを失った校長は、家庭教育の癌と言われている「父親不在」と同様好ましくない結果をもたらしがちである。生徒(わが子)を正しく、たくましく成長させたいならば、校長(おやじ)は生徒と一緒に成長していかなければならない。しかし、それは教え子との頻繁な触れ合いなしではできないことである。私の生徒が、私を校長として、そして人間として、成長させてくれたということは、言い過ぎではない。生徒卒業生諸君ありがとう。

「校長生活30年の回想」からの抜粋



教育者、そして卓越した経営者：

二度目の学園設立ともいえる大船移転に関する
移転関連校長書簡等

フォス校長が、1947年に廃墟の中から立ち上げた田浦キャンパス。1955年夏、防衛庁から校地買収の申し出があったが、1960年春頃にはじめて学園側は正式折衝を持つようになった。それ以来フォス校長は「田浦の売却価格の交渉」で時の防衛庁長官(藤枝、志賀、船田)や大蔵大臣らと、「移転土地の選定」で石坂泰三東芝会長や五島東急社長など、多くの政・財界の要人と会談を重ねた。そして、1963年に防衛庁との間で「栄光学園土地建物等施設売却」の調印、大船玉縄への移転が決まった。

フォス校長の信念、またいかに発揮された政治力、交渉力のお陰で、現在の環境に恵まれた、田浦校地に匹敵するほどの広大な敷地の大船キャンパスが生まれたといえる。フォス校長にとっては二度目の学園設立である。正しく、偉大な教育者でもあり、また卓越した経営者でもあったフォス校長。(写真:当時の栄光ニュースフラッシュから)



フォス校長の教育論

成績よりも誠実、進学よりも人格。まわりの人に高く評価されても、そして出世しても、人間ができていないと負けだ。成績がビリであっても、また社会における地位が低くても、人間ができていれば勝ちだ。

講演や著作物からいくつかの名言を紹介します。朝礼や外部の講演などでたくさんの言葉からはフォス校長の教育への激しい情熱があふれています。あの人は昔から同じことばかり言っている。勉強が足りないのではないかと評する者もいましたが、それほどフォス校長の主張は常に一貫してしていました。一つの信念を守り通したのです。

“良い人間の育成”という信念を。

「立身出世」ならぬ「立心出世」を

栄光を名門校と呼んでくださる。その物差しは何ですか。東大進学率？けしからん！それは教育の結果に過ぎない。マスコミが東大とか有名大学の合格数だけで学校の価値を決めるのは勝手だが、これでは日本の教育を滅ぼしてしまう。「立身出世」という言葉は、「立心出世」と書くべきだ。出世すなわち世に出て活躍する人は、まず心に正しさを備えた人であって欲しい。「躰」という字も良くないな。これは中国語ではなく、国字ですよ。なぜ身ではなく心、つまり立心偏にしなかったか。心を美しくするのであれば、しつけにはならない。これは現在の日本の悲劇の始まりのような気がするなあ。

私達は、生徒を喜ばせるために彼らを教えたり、指導したりしているのではない。どんな指導計画にせよ、生徒の中には、つらいなあと思ったり反発したり、ちっとも喜ばないものが当然いる。それは彼らが若いから、経験が無いから、今のことしか考えていないからである。反面、学校にはまず、将来のことを考える義務が厳然としてある。自分が教えている生徒に、将来どんな大人、どんな社会人、どんな親であってほしいか、どんな人間になってもらいたいのか、そのしっかりした教育の設計図が私たちに求められている。生徒のそのあり方を中心に、的確なやりかたをえらぶのである。一たとえ生徒が喜ばないことであっても。

好き嫌いじゃなくて、今やらなければならないことは何か、それをやりなさい。いやなことでもやる、それが自己鍛錬というものじゃないか。

文部省の考えているような道徳教育では、躰教育にとどまってしまうのではないかと。挨拶、敬語とか席を譲るとかいうことは、エチケットです。いくらでも芝居が出来る。それだけで事たれりと考えてもらっては困る。どんな行動が正しいか、どちらが悪いのか、それはどうしてなのか—それを理解させ、判断力を養成するのが道徳教育でなければならない。

「新潮45+」1990年5月号から

人づくりを目指す一貫教育

私は人間の甘え程、恐ろしいものはないと思っている。人間には面白くないことやきつい仕事を嫌い、ルールから外れていることを欲する傾向があるが、その傾向に応ずることは、即ち、甘えである。甘えは人間の気力を奪い、人間を滅ぼし、国を滅ぼす。

世間は誤解している。私の学校は中学から高校までの一貫教育だが、与えられた教材を早く切り上げ、最後の一年間は受験教育に使っているのに違いないと言われる。全くの誤解である。

私が一貫教育を推進しているのは、主として人間形成の為であって、大学受験の為ではない。生活指導や人格形成の六年間の一定した計画、倫理や宗教の理念の上に立つ個人指導、これこそ私が狙いとしているところである。高校の生活指導も学習指導も、中学でつくりあげた心構えによってできるものである。六年間の一貫教育の美点はそこにある。だから私は、高校になって欠員を生じて、それを安易に補充しようとする気はない。

私は昭和8年に日本に来て、その後、一度アメリカに渡った。ふたたび日本に戻ってきたのは昭和21年だが、この時いちばん驚いたのは、日本の文部省が、アメリカの六・三・三・四の制度を取り入れていたことだ。六・三制の最大の欠点は、子供たちが動揺しやすい年齢に、何度も未知の環境、新しい友達と接しなければならないことである。これがどれほど子供たちの負担を重くしていることだろうか。

私は父兄からときどき質問を受ける。栄光学園は、補習もしない、予備校にも行かせない、市販のテストも利用しない。模擬試験さえ、高3にならないと受けさせない。宗教指導、クラブ活動などを学校は積極的にすすめている。それで大丈夫なのですかと。疑問を抱くのは、学校とは子供の成績を上げる所と考えている父兄に多い。でも、私は絶対に妥協しない。

国民のひとり、ひとりの誠実や人格こそ、個人の幸せ及び社会全体の安定の決め手である。この人格形成を学校教育や家庭教育の第一目標にするならば、入試競争の弊害も必ず減る。そのことは、教師の教育的ビジョン、そして特にわが子の将来に対する親の展望にかかっている。我々教師として、そして親としての、なすべき仕事は多い。

「週刊新潮」1975年6月5日から

日本におけるカトリック学校

1982年、教皇聖下の御訪日の際、一流の英字新聞社から、日本におけるカトリック学校の役割についての記事を依頼された。見出しとして、私は「よい人間を形成することを目指して」とすることに決めた。私が「キリスト教信者を」と言わず、「よい人間を」と書いたので、多くの人々が驚いた。「そんな曖昧な言葉ではカトリック校の目的が、キリストの全世界に行って万民に教え洗礼を授けよとのご命令から、はずれてしまうようだ」と指摘された。日本のような国で、教育事業をするカトリックの施設に期待される宣教の熱意を弱めるものだとも言われた。

しかし、上記の明確な記述は、私共が教育事業を営む上での全般的な指針である。言うまでもなく、学校は、人間についてのキリスト教的考え方に従って指導し、キリスト教の主義と理想の上に立っている。しかし、日本の教会の現状からすると、学生全体に宗教教育を施すことは、ほとんど不可能である。学校が、改宗者を造り出す道具にすぎないと見なされる危険はさけるべきである。それは教育的また宣教上の働きが今成功しつつあり未来に発展する道を阻むことである。

1982年 日本の英字新聞の記事原稿から抜粋

カトリック学校は、カトリックの世界観に基づいた価値観、およびはっきりとした道徳律を持っている。それらを生徒に教え、彼らの心に植え付けることは、我々の本来の働きであるが、それは、同時に、生徒の家庭に対しても一つの素晴らしい奉仕ともなるのである。私は、日本カトリック学校連合会の理事長をしている関係上、全国各地で生徒の父母から幾度も次のような言葉をいただいた。「この学校に子供を入れてよかった。家庭は、子供に教えられて、まるで変わった」。校長をしている間、このような内容の手紙を、何百通も貰ったものである。結局、我々は、生徒の指導を通して、間接的であろうが、生徒の家庭の光や力になっているのである。

家庭には学校からの助言や指導を受け入れる姿勢があるのである。結果的に、我々は、カトリック学校の建学精神をもって、生徒の先生でありながら、親の先生にも成り得るし、そして実際にはしばしばそうである。これは、上に述べた「日本のカトリック学校の特有の役割」であろう。

日本のカトリック学校の使命は、そして、我々教師の使命は、なんと素晴らしいものであろう。日本の家庭や広い社会にまで、「世の光、地の塩」になりうるからである。これこそ、現代日本におけるカトリック学校の社会的使途職や福音宣教である。

1980年4月 そよかぜ第2号、巻頭言より抜粋

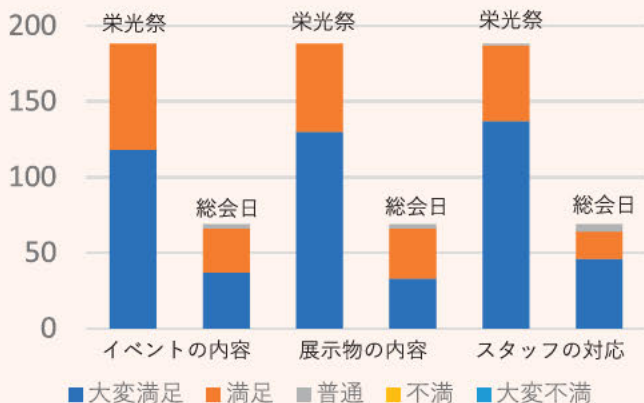
グスタフ・フォス校長の経歴

- 1912年10月11日(大正元年)ドイツ・ドルトムント市に生まれる
- 1932年4月 19歳 イエズス会に入会
- 1933年10月 21歳 来日(日本語、東洋史、哲学を研修)
- 1939年8月 26歳 米国留学(神学、歴史学を研修)
- 1942年6月 29歳 カトリック司祭として叙階
- 1946年2月 33歳 カリフォルニア大学大学院卒業(東洋言語学)
- 1946年9月 33歳 再来日
上智大学教授に就任
- 1947年3月 34歳 上智大学教授を辞任
- 1947年4月 34歳 上智学院、栄光中学校(旧制)を設立
初代校長に就任(1期生72人)
副校長ハンス・ヘルベック、
訓育主任ハンス・シュトルテ、
教務主任殿村秀雄、他にヘルムト・ウルフ等
- 1956年12月 44歳 学校法人栄光学園設立
初代理事長に就任
- 1964年9月 51歳 神奈川県知事表彰(教育功労者)
学園は田浦を離れ、
鎌倉市玉縄の現在地に移転
- 1965~73年 52歳 神奈川県私学審議会委員
- 1967年 54歳 創立20周年、学生紛争の影響を受け、
組織・制度を見直す
オナス制の廃止、高校生徒委員会発足等
- 1977年3月 64歳 栄光学園中・高等学校長を辞任
- 1977年7月 64歳 藍綬褒章
- 1977~87年 65歳 日本カトリック学校連合会理事長
- 1982年6月 69歳 栄光学園理事長を辞任、
「名誉学園長」となる
- 1983~84年 71歳 文部省視学委員(初等中等教育局)
- 1984年5月 71歳 勲四等旭日小綬章
- 1990年3月19日(平成2年) 帰天(77歳)



満足度は高かった！

回答いただいたアンケートの集計です。



イベントの内容、展示物の内容、スタッフの対応の項目で、いずれも『大変満足』と『満足』で97%を超えました。ちなみに、『また、この企画があれば、来たいか?』に対しての回答は、100%が【また来ます】でした。

念願叶い、ついに開催！

フォス初代校長先生ご帰天後30年の特別展を、ようやく3年越しで開催することが出来ました。学園アーカイブからの厳選。全てを展示出来た訳ではありませんが、少しでも多くの皆さまにフォス先生を思い起こしていただければ、またフォス先生を知っていただければ、との思いで企画しました。



栄光祭当日は、ご多忙にも関わらず、朝一番、真っ先に望月校長先生が来場してくださいました。多くの先生方、在校生とご父母、また来校された受験生とご父母にもお越しいただきました。そして翌週の定期総会当日には、多くの会員がご来場くださり、OBの皆さんの満足気な様子、満面の笑みを見て、スタッフ一同「ああ、開催して本当によかったなあ」と思った次第です。学園関係者の皆さま、同窓会員の皆さまに、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

同窓会長 山田宏幸

訪問者を揺さぶった、フォス先生の声！

栄光への受験を検討中の方、在校生、在校生のご家族、教職員、OBの皆さんの訪問がありましたが、何と150名を超える方が、アンケートの自由記述欄に今回の企画を見ての感想を記載してくれました。そこには「有難うございました」で締めくくられたコメントが大変多くありました。もちろん、企画担当者への謝意でもありますが、それと同時に、この企画との出会いに対する感謝のようにも感じております。寄せられた自由記述のほんの一部になりますが、本誌面で紹介させていただきます。

《在校生》

- 最近の日本の俗にいう進学校が忘れてしまった「あたたかさ」を感じた。フォス校長の頃の栄光に学んでみたかった。
- 「栄光生」として生活していることを誇らしく思う。フォス校長に恥じないような生き方をしようと改めて思った。今の栄光を見たらフォス先生は何をおっしゃられるのだろうかと少し考えてしまった。卒業してしまう前にこの展示を見ることが出来て本当に良かった。
- 高3になって初めてフォス先生の深い部分を知ることが出来た。フォス先生の手記や言葉から今も生き続けている”Men for others”の理念の根にある教育への情熱が感じられた。
- 自分はもう高3なのだが、未だにフォス校長のことをあまり知っていなかったことに気付いた。もう少し早く同種の催しがあっても良かったかなと思いました。面白かったです。

《一般の方々》

- フォス先生の愛情あふれるお人柄に触れられて、ますます息子が御校に入学できればと祈りました。
- フォス先生の教育論に心を動かされました。
- 横須賀時代のことが色々お聞きできてよかったです。とても興味深いお話ありがとうございました。
- 栄光の歴史に初めて触れることが出来て、意義深かった。有難うございました。
- 毎年は無理でも、定期的なフォス校長関連の展示を期待します。カトリック神父の先生もまた昔のように栄光学園に来られることも期待します。
- 素晴らしい。栄光に入れたくなった。

《在校生のご家族》

- フォス初代校長のお言葉を見て、「人を育てる」ことの大切さを改めて考えさせていただきました。毎日の学校生活から何かを学び取ってくださることを願っています。有難うございました。
- 子供が二人お世話になりました。(一人は在校生)様々な資料により、昔から変わらない栄光の精神に触れることができ大変興味深いものでした。同時に子供たちがこの学園に身を置けたことを有難く思いました。栄光祭の時に毎年あってもよいイベント展示だと思います。有難うございました。
- フォス校長の言葉に接する機会を持って、栄光の目指す教育の暖かさに触れることが出来ました。是非また開催してください。
- フォス先生がお話されている音声を聞いて感動しました。デッカー大佐のかかわりも興味があるので、今後展示頂けたら嬉しです。
- フォス校長先生の言葉に感動しました。生徒のことを思い、日本の教育と未来を思い、人生をかけて努力されたことが本当によくわかりました。本当に良い企画をしてください、ありがとうございました。
- 伝説のフォス先生の肉声を初めて聞いて、とても感銘を受けました。子供が入学以来、折に触れ、栄光学園の方針、大切にしている教育観、を伺ってきましたが、文字に起こされたフォス先生の言葉は、改めて栄光学園が栄光精神たる精神をストレートに語りかけてくださいました。息子は高3で最終学年ですが、今、このような貴重な機会を得て、本当に良かったです。有難うございました。
- 昔から教育方針は基本的でブレがないところが、とても良いと思いました。
- これまで見たことがない、また写真などで目にするだけだった貴重な品々に実際に触れることが出来、嬉しく思いました。有難うございました。OBの方々のお話も、とても分かりやすく良かったです。

フォス校長先生の思い出

—「フォス初代校長特別展」を観て—

5月21日、同期の仲間7人と「フォス初代校長特別展」を見学した。生前の先生の声を聴きながら、数多くのパネルを観て回った。中学時代の英語の教科書やオナスカードなど懐かしい展示物の中に、田浦から大船に移転した翌年、1965年2月発行の「栄光ニュースフラッシュ」があった。一面トップが「移転を終えて」という、フォス先生が生徒のインタビューに応えた記事で、その中の一文に私の目は釘付けになった。

「大船を買うことに決めて東急不動産と交渉した。その他の土地は7、8人の地主さんと交渉した。交渉は大変だったが、岡本の人は好意的だったので、交渉そのものは楽だった」。

私は50年以上も昔の出来事を思い出した。1971年、私の勤務するN信託銀行が大船支店を開設することになり、準備員になった。夏のある日、岡本地区に在る、母の親戚の農家を訪ねた。私が「栄光出身」と言うと、年老いた主は「わしは土地の売却に最後まで反対していたが、ある晩、校長と名乗る外人が一升瓶を下げてやって来た。二人で飲んでいるうちに、とうとう売ることにした」と語った。老人の話は今日に至るまで、私の脳裏に釈然としないまま残っていた・・・本当にフォス先生が自ら？・・・私はインタビュー記事を繰り返し読んだ。農家の土間で、茶碗で冷酒を飲む先生の姿が思い浮かんだ。短い一文だが、私にとっては大発見だった。

母の親戚を訪ねた数日後、私は栄光学園の取引を取ろうと思立った。卒業して15年、初めて訪れた母校は夏休みで、事務室には職員が一人だけ。信託商品の有利性を説明したが、らちが明かない。「校長先生はいらっしゃいますか?」。しばらくして、フォス先生が現れた。私は緊張したまま「石川です。お取引のお願いに参りました」。先生は眼鏡の奥から私をじっと見て「君は、卒業してから初めて会うのに、もう商売の話ですか」。Y銀行一行取引と知っていたが、信託金利が定期預金より高いことを必死に説明した。「7.47%? 問題にならないよ。Y銀行は“現先”と合わせて提案してくるよ」。私は“現先”なるものを知らなかった。準備室に戻り本社に連絡すると、栄光と取引出来るなら協力すると言う。再度、先生にお会いした。即、取引開始となった。決定の速さと資金の運用まで先生がされることに驚いた。同年秋、大船支店は開店した。先生に「記念講演会」の講師をお願いに上がった。快く引き受けて下さった。

当日の会場はエレベーターホールまで、教育ママやパパ達で満員になった。

「フォス初代校長特別展」で私がスマホで撮ったのは、インタビュー記事の一部分だったので、後日、同窓会事務局にお願いして、記事全文をお送り頂いた。全文を読んで、フォス先生の大船移転に関わるとご苦労や教育に対する確たる考え方を知り、大きな感銘を受けた。

以下、「栄光ニュースフラッシュ」より引用(一部要約)「一番苦労したのは防衛庁との交渉。学校の移転費用は土地の売却代金だけで賄われるのだが、国の方はあまり金を出せないで、岸壁など国に必要な部分は国に売り(6割)残りはオープンマーケットで民間会社に売ることにした(4割)」「学校が銀行から金を借りるのは大変な問題だよ。しかし、金を借りなかったら移転は不可能だった」「強制ではなく父兄の意志で集めた祝金は2千万円。うれしかったが、一人当たり2万円。父兄の方に迷惑をかけないようにした。10億円以上かかる事業を考えると、2千万円ぐらい出して学校を手伝うのは常識的に当然じゃないか」「山を削って谷を埋める、余りの土が出ないようにうまくやらないと、4、5千万円の差ができる。その為、講堂はグラウンドから60メートル(※原本の記述のまま)高くなったが、私達の案だ」「こんど入る人の父兄が、“バスに乗らないのはつらいのではないか?”と言った。これはじつにけしからん話ではないか。駅からたった1km、生徒にとって必要な距離だよ。歩くのが当然だよ。バスは許可しないぞ」「Aオナス、Bオナスというのではなく、ギリギリの成績でも自分の力を最大に出していた卒業生が今活躍している」「リーダーになるためにしっかりした道德感のある紳士になってもらいたい。今の世の中では、高く評価される人でもそこまで若い人を引っ張ってやろうというのは、口先だけのことが多い」

私のフォス先生の思い出は、栄光在学中よりも社会人になってからの方が深く、自らの思いを断固として実行する人、という印象が強かったが、若い生徒のインタビューに応える先生の言葉は、私の思い出と重なって、半世紀を経た今も尚、私の心を強く揺さぶった。先生は、私にとって、人生の師であり、また経営の師であり、そして何よりも難しい恩師であった。

最後に、コロナ禍の中で「本特別展」を企画、開催された同窓会役員の皆様にご心より敬意と御礼を申し上げます。

石川俊克(7期)

栄光ヒミツキチ

栄光ヒミツキチって何???

栄光ヒミツキチって知っていますか?「栄光生を縦にも横にもつなぎまくる!」をモットーにした活動のようです。同窓会としてはその活動趣旨は見逃せない。ということで、栄光ヒミツキチを主催している66期の西村君に、インタビューしました。

— 今日はよろしくお願ひします。さて、早速ですが、栄光ヒミツキチの活動について、ご紹介いただけますか?

【西村】「栄光ヒミツキチ」は、年齢や所属問わず、栄光の先輩や後輩がとにかく気軽に簡単に繋がることを目指す**栄光関係者限定のコミュニティ**です。現在はオンラインの記事や動画で情報を発信するメディアとしての活動がメインとなっています。栄光生であることで入れる栄光生だけの交流の場は、まさに合言葉を告げて入れる、表の社会から一歩隠れた秘密基地のようだと思います。そして、「ヒミツキチ」という名前を付けました。

— ここに至るまでに、紆余曲折があったと伺っているのですが、企画のきっかけは何だったのでしょうか?

【西村】活動の種の部分を最初に発想したのは2019年の秋、自分が大学2年の時でした。入学当初はどの講義にもワクワクしていた自分がいつの間にか、卒業に向けて取得すべき単位を逆算して必要な講義を受動的にこなしている。その事実を何かすごく情けなく感じたというか。と同時に、「今、一緒に卒業した66期の人たちってどこでどんなモチベーションでどんな勉強してるんだろう…」と気になりました。中高時代という人格形成期の体験を共有する栄光同期の大学での学びの動機はあまり知りませんでした。その学びのモチベーションを知ることが自分にとっての刺激となり、また**学問に対する面白さ・興味を見出せるきっかけになるのではないかと考えました**。そこで「栄光を卒業した大学生が今大学でどんな学びをしていて、何が楽しいのか」を発表し合う自主ゼミのようなものができるか、とぼんやり考えたのです。

— 学びの動機付けのための自主ゼミ!響きがカッコいいですね。

【西村】今でこそ「栄光生を繋ぐ…」とか何とか、立派な大義名分を掲げていますが、出発点は「**他人のやる気で自分のやる気をあげたい**」という何とも利己的な動機によるものでした。自分はこの利己的な動機をいかにも他人のために活動しています、というふうに見せるのが得意な

んです(笑)。でもまあ、結局誰かのためにもなって自分のためにもなるのであれば、動機はどうであれやったほうがいいよね、という考え方でこの活動を構想しました。

— モチベーションって満足感も含めて、自分へのリターン感の有無って大きいと思います。でも、まだ構想ですよ?それが動き出すきっかけは?

【西村】構想はしたもの、実際は目の前の大学の講義やアルバイト、サークル活動など**毎日が忙しく**、具体化に向けた動きはあまり取れずにいました。しかし2020年4月に、その大学、バイト、サークルなど日々の活動が全て吹き飛んでしまいます。想像では多忙で鮮やかなはずの大学3年の学生生活が、1日の大半を一人暮らしの家で過ごす無機質な生活になっていました。混乱する就活情報にぼんやり目を通しながら、永遠とも思える孤独感・閉塞感に苛まれていました。

— なるほど。着想の2019年秋はコロナの前ですね。2020年春からのコロナ禍で、多くの人の日常が激変しました。特に大学生にとっては大きな孤独感をというの、よく聞きます。それがどのように吉?と出たのですか?

【西村】幸か不幸か、**全てのスケジュールが空白**になったおかげで、時間だけはありました。このままでは気が狂う。何か、この状況で少しでも楽しいこと・新しいことができないかと考え、思考の棚卸しをした時、ふと、その半年前の構想を思い出したんです。

— 温めたかった卵を見つけて孵化させる時間を得てしまった…。でも、実際には簡単じゃないと思いますが。

【西村】この頃、**Zoomで話す**というのが既に新しい常識として確立されていました。このツールを使えば、気軽に簡単にお互いの話ができるのではと考えたんです。早速、同期の中で協力してくれそうな数名に声をかけ、Zoomでの発表を快く了承してもらいました。おそらく皆、暇だったのででしょう(笑)。また、運営協力してくれる同期も集まってくれました。

恋ダンス
出演交渉・振付指導



▲ 思い出の企画といえば歩く大会(学園とは別)の8時間強のYouTube生放送。
左上の枠内で祈る西村君(放送担当)、真ん中は武君(66期)(現場実況担当)

— 若い世代の、Zoom含めて、新しい環境への対応と活用の速さはさすがと感じますが、同期の皆さんも刺激とチャレンジする場に飢えていたんですね。

【西村】 あとは日にちを決めてやるだけと、思ったのですが、Zoomに同時参加できる上限人数の問題が発覚しました。無料の学生アカウントでは、時間無制限の会議を設定できる参加人数上限が確か40人とかまでで、参加希望人数を鑑みた時に全員が参加できなくなってしまう。これは困ったとネットで対処方法を探していると、ZoomのやりとりをYouTubeで生配信してリアルタイムで見ようというやり方があることがわかりました。ここに、公開範囲を限定したURLを配信することで特定の人しか参加できないライブ配信をするという形が誕生しました。

— 課題点の把握と対処法の模索のスピードが速すぎて、ややインタビューアーがおいていかれています。

【西村】 その後、ひょんなことから、2020年11月末に武君(66期)の運営への協力を取り付けるのに成功して、そこからとにかく速かったです。同期の複数の友人にどんな内容があったら面白いかのアイデア出しを手伝ってもらいながら、12月には放送を開始しました。年が変わって(2021年になって)からは、毎月の頭に企画会議をして翌月の放送内容とスケジュールを大方設定していました。それに加えて各週の打ち合わせでその週の放送に向けての準備の進捗報告や具体的な内容相談などを行っていました。ここはもう完全に生活のルーティンとして染みつきました。金曜日の放送までに逆算して内容考えて、アンケートなり投稿フォーム作って、スライド作って、台本作って、と自分は結構生活の中心に置いていました。当時は大学4年ということもあり、大学の授業が少なかったのは助かりました。

— コロナに振り回されているというよりは、コロナを振り切ったような力強さを感じます。あらためて活動を振り返ってみたときに、印象的な企画や苦勞といえは？

【西村】 思い返せば色々な企画をやりました。最初はなかなか投稿の数も集まらず、企画ができるのかと不安にもなりましたが、徐々に投稿していただける数が増えてきました。一つ一つの視聴者の方からの投稿が本当にありがたかったです。実際の発表の内容や様子については、今もヒミツキチの過去動画アーカイブでご覧いただけますので割愛します(笑)

— その辺りの苦勞のこぼれ話は、またの機会に回しましょうかね。さて、西村君はいよいよ大学を卒業して社会人になってしまったわけですが…

【西村】 はい、今年の春から、西村は社会人、武は大学院生とそれぞれ新たなステージに突入しました。今までの準備量を考えた時、週1ラジオ放送の継続は難しいだろうと結論づけ、今年の頭から活動の持続可能な形を模索してきました。そして、より多くの方にご協力いただける、かつ編集・公開の手間が少ない「文字媒体」、つまりWEBマガジンの形で、今年の春から、「栄光ヒミツキチ」として運営することになりました。匿名性や内容の自由度から幅広いジャンル・年齢の方から寄稿いただけていて、一定軌道に乗りつつあります。

— WEBマガジンでは主にどんなことを？

【西村】 特に、栄光生の多様な仕事や生き方を等身大でお伝えるコンテンツを充実させていきたいと思っています。どんな人が、どんな場所で、どんな経緯で、どんな仕事や人生を経験し、何を思っているのか。お一人お一人のケースからこれからの栄光生の生き方のガイドになるようなものをお届けできればと思っています。

— それは更新含めて、配信が楽しみです。

【西村】 少しでもヒミツキチの中身に興味を持ってくださった方は、ぜひ会員登録いただけると幸いです。

— そうですね。読者にも是非登録をですね。本日はありがとうございました。

参加方法、詳細は右のQRコードよりご覧ください。▶



▲ 西村君(左)と武君(右)、湘南ビーチFMにも出演しちゃいました

OBだより

22.6.20

10期ゴルフ会

同窓会HP > 活動報告・会報記事 > 各期活動



ゴルフ会の歴史

10期生のゴルフ会は2ヶ月に一度開催されています。2022年7月時点で第159回を数えます。1994年7月の第1回から28年の長寿ゴルフ会です。この会が始まる前は在学中から仲が良かった野球部と蹴球(サッカー)部のOBが主体となり、「野蹴会」というしょうもない名をつけて不定期にゴルフを楽しんでいました。田浦では野球のグラウンドの左翼がサッカーコートと重なっていたせいか卒業後も両部のOBはよく交流していました。何故かそこに山岳部やバレー部のOBも個人的つながりで混ざっていました。

1994年当時10期生はちょうど50歳になったところで、国内外に仕事で散っていた同級生も地元に戻ってくる年頃でした。部にこだわらず10期のゴルファー全体に声をかけて同期会にしようということになり、第1回が1994年7月24日に開催されました。当初は約3カ月おきに行っていましたが、「元気なうちにジャンジャン楽しもう」という声が高まり、第8回からは2ヶ月に一度、原則奇数月の最終日曜日には必

ず開催するということになりました。大方の参加者が65歳になる2008年1月の第75回から2010年11月の第95回までの3年間は日曜日と水曜日に曜日を交互にして、大半が現役を退いた2011年からは水曜日に固定されました。会場は参加者のいずれかがメンバーであるクラブを選んで転々としていましたが、次第に固定されてきて、現在では1月鎌倉CC、3月横浜CC、5月レイクウッドGC、7月仙石GC、9月木更津GC、11月芙蓉CCで開催されています。運転免許証を返納する参加者も出てきた年齢ですからあまり遠くへは行けません。

10期生は他学年に比べると何故か卒業生数が152名と少なかったのです。その割に逝去者が2022年6月時点で39名と多いのです。現在の生存者は113名、ゴルフ会にはここのところ6組ほどが集まります。ゴルフをやらない人もたくさんいるわけですから、21~24名が参加するということは大変な割合です。



第83回栄光10期ゴルフ 於 程ヶ谷CC 2009.3.25



長続きの秘訣

10期生はことのほか仲が良いとよく言われますが、これだけ長続きするにはそれなりの理由があるのです。全英オープンゴルフですら今年が第150回ですから。後輩の方々のご参考になればと、長続きの秘訣を4点お伝えします。

1. 頻繁に開催し、予定日を動かさない

上述のように栄光10期ゴルフ会は奇数月の最終水曜日に開催されます。10年先でもそのままです。このように決まっていれば参加者はその日を予定に入れておくことができます。どうしても外せない所用がその日に入っても、隔月開催されるのですから、一度抜けても4か月後にはまた皆に会えるという安心感があります。

2. 幹事は持ち回りにしない

「次回幹事は優勝者とブービー」などと決めている会がよくあります。理由はともあれ幹事役を忘れてしまう者が必ず出てきます。永久に幹事を引き受ける奇特定の人間が必要です。第140回まで幹事を引き受けてくれたのが宮杉武君です。同君の水素燃料プロジェクトの仕事が忙しくなり、その後は小生が担当しています。また、当日はその会場のメンバーが会場幹事としてヘルプします。

3. ハンディキャップを実力どおりにする

「優勝者の次回ハンディキャップは2割引き」などと懲罰的なハンディキャップを定める会がよくあります。2度も優勝すると未来永劫勝てなくなります。この会では参加直近

5回のグロススコアからハンディキャップを割り出し、毎回改訂します。おかげで誰にも優勝するチャンスがあるのです。

4. ちょっと良いことをしていい気分になる

参加費のほかに一人1000円を徴収し、特定非営利活動法人NPOノア宛に毎回寄付をしています。ご存知の方も多いと思いますが、このNPOは5期生の伊藤輝男先輩が1990年に立ち上げた身寄りのないハンディキャップの方にマン・ツー・マンで寄り添う施設です。金額は少ないのですが継続的に支援することで多少のお役に立つのではないかと一同で自己満足しています。

これから

今にして思うことは知り合ってから70年近くこうしていつも身近にいられる仲間を与えてくれた母校への感謝です。なれど、歳を重ねるにつれ参加者が徐々に減っていきます。亡くなった39名の同期生の中にもゴルフ会の常連が10名いました。最近で開催当日を黙祷で始めることもしばしばです。現在、開催案内を送る対象は40名ほどです。そして集まるのが約半分。「2組集まらなくなったら止めよう」などと話しています。「200回まで行けるといいな」と大胆な発言もあります。あと7年です。86歳までゴルフができる10期生が8人以上必要です。

中前 峻 (10期)

栄光ヒュッテに夢寄せて



学園にかつて存在した山岳部(1950~75年・1~24期生)。OB14人が5月29日、栄光ヒュッテを訪ねた。好天だったが、10人はマイカーなどに分乗、歩きの4人もヤビツまではバス利用、かつての「山男」の面影はない。5期から22期生までの一行、その平均年齢は76,4歳、後期高齢者が11人を占めたのだから・・・。

ヒュッテの頑丈な扉を開けたのは午前10時半。ストーブを置いたダイニングスペースは、清掃も行き届き、奥の左右の板張りの広間には新たに天窓が設けられて、思いのほか明るいのが印象的だった。早速、左手の6畳二間の窓を開け放つと、奥の壁中央にありましたよ。天狗さん(ハンス・シュトルテ神父・2007年帰天)がにこやかに笑うパネル写真が。囲むように、愛用のピッケルや編み笠など思い出の品々も。

今回のヒュッテ行、学園のアーカイブズ企画の一環として、学園と山小屋に収蔵・展示した天狗さんの遺品と山岳部のモニュメントを、「この目で見たい」というのが発端。遺品の品々は“健在”だったが、「山の男の十の掟」を刻んだ白樺の原版は表面が欠け落ち、残念ながら使命全うだった。岩崎孝之OB会長(10期)の発声で「十の掟」を唱え、山岳部歌を斉唱したが、続く懇親では、小屋の将来を心配する声しきり。「頑丈な造り。いつまでも、あって欲しいが・・・」

そもそもヒュッテの成り立ちは、天狗さんが山岳部を創設した1950年、タライゴヤ沢でテント合宿を始めたのが起源。一般生も混じえ夏の恒例行事となったが、「通年使える小屋が欲しい」の一念から、開校10周年記念事業として1957

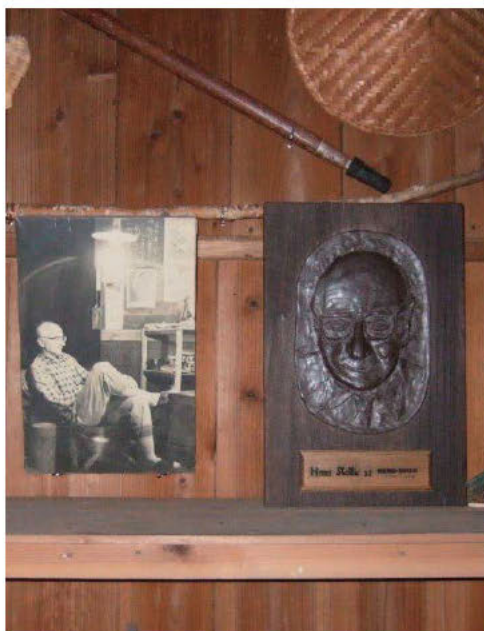
年7月に落成した。建設作業には、5~10期生有志が週末ごとに通い、地ならし、セメント・木材運びに汗を流した。「草や岩の斜面をツルハシやスコップで削り取り、その土くれを“パイスケ”に乗せて沢側に運び、徐々に土地を広げていった」(8期・仲村邦弘)という。

後に続く山岳部員にとっても、ヒュッテは聖地だが、意外にも卒業後に小屋を利用した人は殆どいない。ハイキングやドライブの途中に立ち寄っても、周囲をぶらぶら歩く程度。学園への連絡、鍵の借り出しなどを考えると、どうにも敷居が高いのだ。

さておき、昼食は丹沢ホームでの鴨焼きと川魚。「来年も来たい」、「身体が動くうちは何歳までも」の声が出て、最後は輪になって「涸沢の朝夕」の合唱も。そして許されるなら「泊まって、ゆっくり炊事、珈琲を楽しみたい」(9期・田中實)、「物見峠から入って、塔が岳を目指したい」(16期・梅田純)など、ヒュッテへの期待と夢が、後に多く寄せられた。せせらぎを聞きながら読書、森林浴やマイナススイオン浴、バードウォッチング、野生動物の足跡探索、昆虫や植物の観察、ルアー釣り、植栽や間伐のお手伝い、焚き火、四季の写真撮影、静寂に浸る・・・などなど。

今や1万2千人と言われる学園の現役・OB。先達が立ち上げたヒュッテが、大自然の中に佇む貴重な資産として、永久にあり続けて欲しい。そんな思いを新たにしたい一日だった。

田中 泉(11期)





5月25日(水)、横浜のホテルプラムで18期の卒業50周年記念同期会が開催されました。2020年に行う計画でしたが、コロナ禍で延期され、ようやく開催の運びとなりました。

当日は、梅津尚志先生、ロバート・キエサ先生の恩師おふたりを迎え、同期生40人が集まって、感染対策を十分にとりながら、正午から3時間にわたり楽しくにぎやかに過ごしました。また「リモート参加」でも2人の同期生が参加、体調不良のため出席を断念されたマヌエル・シルゴ先生のリモートでの「サプライズ参加」もあり、大いに盛り上がりました。

18期の大半はこの時点で70歳という年齢でしたが、すでに22人の同期生が亡くなっており、当日は在校時代を中

心とした故人の写真をスライドショーで紹介し、リモート参加者を含め全員で黙とうを捧げました。

「全員に声をかける同期会は最後にしよう」という案もありましたが、まだ現役で仕事をしている同期生が、医師を中心に何人もいることから、今後も継続することを確認してお開きとなりました。ご出席いただいた先生方とともに、多くの便宜をお払いいただいただけでなく、自ら記念写真撮影まで行っていたいただいたホテルプラムの平山浩義社長(19期)に深く感謝します。

大住良之(18期)

未来EiKO募金

EIKO HIGH FOREVER FUND

【未来EiKO募金】ご協力をお願い

栄光学園は、創立100周年にむかって、今後も時代のリーダーを輩出し続けることができるよう、「未来EiKO募金」を設立しました。これまでに集まった基金は、野球場の改修、生徒用のiPadの購入、生徒の学費支援などに使われおります。母校のさらなる発展のため、未来のため、みなさまのご協力をお願い申し上げます。募金は随時受け付けています。

詳細は右QRコードよりご覧ください。▶



第5回オール栄光ゴルフコンペ



苦しかった3年間のあとに

3年前の大会で我々は、奇跡的な偶然でオール栄光の幹事になりました。同期の参加者僅か5人で僕が個人戦で勝ち他に3人が15位以内に入って、何と17人もいた27期、強豪の先輩20期などを圧倒的な大差で打ち負かしてしまいました。優勝へも幹事の仕事への心の準備もまったくなく、事務局からは当日だけ頑張ってくれば良いと言われてたような…。

しかし、そこからが大変でした。2年続けてコロナ禍に見舞われ今年こそはやるぞ、と言いながらなんと何と3年。この幹事をちゃんとした期にお渡ししなければ栄光の歴史に傷をつけてしまうと、この一念で毎年を過ごしておりました。

今年もまた駄目かと思っていたのですが、5月に入りコロナは沈静化の様子。募集をかけたのは6月20日。2ヶ月後に大コンペをやるには極めてリスクなタイミングでしたが、急な参加応募に対して何と前回並みの80人を超すエントリーがありました。

そして7月6日には前年の幹事期ではなくボランティアで事務局をやってきた27期の渋谷君と岩倉君、そして山田同窓会会長と会うことが出来ました。成り行き上、その場で必要なすべての過去ファイルが我々に渡されました。まあ僕としては、21期はゴルフは下手だし年は取ってきているが、皆んな徹底的に面倒見が良いので何とかかなかなと思って受け取った次第です。

さあやろうと思ったのも束の間、コロナは増える増える、感染者数が世界一になってしまいました。そしてこのまま関係者の誰にも会えないままに当日を迎えることになってしまいました。



▲ 左より同窓会長、林先生、小泉先生、渋谷君

大量にキャンセルが出たら中止の決断をせざるを得ない、このストレスに耐えながら、大量のLINEとメールのやり取りだけで、皆で開催に向けての必死の努力をすることになりました。

ふたを開けてみると出席者は79名、数名が残念なことにコロナで来れませんでした。殆どの方が当初の約束通りに集まってくれました。栄光生の頑張り、心意気の繋がりに心から感動した次第です。

そして当日は幸運なことに猛暑ではなく雨模様でした。

当日の参加賞は山田同窓会会長に自ら選んで頂いた、栄光学園のロゴ入りのキーホルダー、ボールペン、タオルです。皆さんに好きなものをひとつ選んで貰いました。どれもなかなか素敵でした。

それでは当日の様子と競技結果です。

個人戦:7年越しの悲願達成

映えある個人戦のネット戦の勝者は、22期の浅葉君、第一回大会の個人戦で2位、7年越しの悲願達成です。しかもグロススコアは7年前と同じ82、頭が下がります。

①浅葉(22)82-68.8、②大和(39)83-71.0、③米村(43)89-71.0

ベストグロススコア:実質5年連続!?

ベストグロは23期の崎山君です。当日は幹事期として参加賞を配って貰いました。2連覇した後に2年間お休みとなりまた勝ったわけで、何と実質5年連続、リアルキングです。ベストグロには毎回盾が授与されます。どんなものなのか崎山君にしか分からない。当日は崎山君に「面倒だから今年もベストグロ取って下さい」と強くお願いしましたところ、「緊張するよ」とか言いながら結果を出してくれました。幹事として感謝!

①崎山(23)76、②玉島(父)77、③中澤(34)80、



密を避けての懇親 ▲

技能賞:8期の塩谷大先輩、お見事…！12番

次は技能賞です、グロスでも77で2位の玉島さんがドラコンを3つ取りました。始めは67期、22歳だと、でも実際は67期のお父様で58歳とのこと。すべてのドラコンホールで真ん中にぶっ飛ばすとは本当に驚き、そして最後の17番ホールではその飛んでいた玉島さんの球を飛び越したのが39期の村上君、凄すぎます。そして今回はなんとと言ってもニアピンです。12番では参加者最高齢の8期の塩谷大先輩、本当にお見事でした、お顔を拝見しても穏やかでとても若々しい、まさに手本とすべき大先輩です。

ニアピン: 2番、久村(27)、小藤田(21)、6番、守谷(21)、金高(64)、12番、塩谷(8)、村山(22)、16番、大須賀(39)、崎山(23)
ドラコン: 3番、玉島(父)、崎山(23)、5番、玉島(父兄)、大和(39)、15番、玉島(父)、横山(63)、17番、村上(39)、山本(24)

団体:39期が幹事権獲得！小泉先生のチームが

そして当日のメインイベント、ネットの団体戦は、若々しい、まだ40代もいる39期が先輩の22期以下を圧倒して堂々の初優勝です。

団体戦ネット:

①39期、72.6、②22期、73.7、③24期、74.5、④(単独4位)20期、75.2
これで39期が次回の主幹事に、単独チーム4位の20期が副幹事となりました。一番望んでいた新旧交代の結果となり、事務局の渋谷君とも大喜びをしました。

最後に団体戦のグロスです、何と「先生、一桁期、10、60期 台、ご家族」組の圧勝でした、先の玉島さんに加え、林先生、小泉先生、63期の横山君の4人です。

この結果、生えある伝統の優勝トロフィーは単独チームの1位の39期へ、強豪の20期を僅差で抑えました。39期の皆さん、ネット・グロスの完全優勝、本当におめでとうございます。

団体戦グロス:①「先生、一桁期、10、60期 台、ご家族」組、83.7、②(単独1位)39期、87.5、③20期、87.8



▲ 団体優勝39期

幹事の役割は無事に

今回はコロナ禍のため全員参加の表彰式は行えませんが、プレー後は多くの参加者が現場に残って結果を待っていただきました。我こそが優勝と思っても頂けたのだと、その力強さを本当に頼もしく思っています。懐かしい仲間と談笑する姿、賞をゲットした仲間達の飛び切りの笑顔、癒されました。そして何よりも、完全優勝の39期の皆さんが全員揃って大喜びしている生写真を撮れたのは素晴らしいです。

今回の大会は、コロナ禍を乗り越えて栄光生の繋がりを確認出来た良い機会であったと思います。まさに未来に向けて様々な「困難を乗り越えて繋がる栄光生の心意気」を示して頂いたと感じています。合わせて若手の台頭にも大いに感動しました。30期台以降の参加者は第一回は14名、今回は25名、そしてついに39期の皆さんが先輩の厚い壁を突き破って優勝するという嬉しい結果になりました。未来への期待も膨らむばかりです。

21期23期の幹事団よりこの場を借りて、この困難の中で格別のお骨入りを頂いた山田同窓会会長、事務局の渋谷君・岩倉君、そして参加された皆さま、そして外から見守って頂いたすべての同窓生の皆さまに心より御礼を申し上げます。おかげさまで何とか明るい未来に繋げることが出来たのかなと、次回は若い？幹事団の元で益々の盛会になることを信じております、我々ロートルも腕前をさらに磨いて出来る限り長く頑張りたいと思います。

岡部、柄沢、小藤田、高橋、辻、村上、守谷(文責)(21期)
杉浦、崎山、大柴(23期)



幹事団 ▲

エピソード

21期は実は4位で副幹事期となった20期とは完全に同ネットでした。まさか年齢で負け抜けるとは…

27期ハマスタ観戦イベント



▲ アフロヘアでダンスコンテストに挑戦！

今年で10年目です

27期による夏の恒例ハマスタ(横浜スタジアム)ナイター観戦イベントが8月26日に行われました。2013年から始まるこの集まりも、今年で10年目の節目を迎えることとなりました。コロナ禍の影響でこの2年は休止しておりましたが、3年ぶりに再開されたイベントに、ベ이스ターズ・プロ野球ファンの22名の同期が集まり、賑やかなひと時を過ごしました。

過去には、我々27期だけでなく飯野先生や家庭科の大竹先生にもご参加いただいたことがあるこのイベントは、毎年20名前後の仲間が集まり、これまで延べで150名以上が参加しています。両先生にご参加いただいた2017年の広島カープ戦は特に印象的で、9回裏に3点差のビハインドを、筒香、ロペス、宮崎の3連続ホームランで逆転サヨナラ勝ちをおさめるという、プロ野球史上初のドラマチックな展開となり、今でも「我々が最後まで諦めずに応援したからだ」と、仲間内で語り草となっています。

今年のベ이스ターズはコロナウイルスによる選手離脱の影響などもあり、開幕スタートから躓き、首位ヤクルトとは最大で17.5ゲーム差まで開いて下位を低迷していましたが、8月の快進撃によりこの日までに4ゲーム差まで詰め寄っていました。これ以上無い、という絶好のタイミングで迎えたこのヤクルト戦は、本拠地18連勝もかかる首位攻防の天王山となりました。

試合自体は、序盤から5回まで手に汗を握る投手戦でしたが、6回表に試合が動きまわりました。ヤクルト無死一、二塁のチャンスに若き主砲村上にフルカウントから痛恨の3ランを浴びてしまいました。さらにリリーフが2ランを浴びて5—0。その裏に代打戸柱のソロホームランとこちらもベイの若き主砲牧の2ランで詰め寄りましたが、その後もヤクルト村上に

この日二本目の追砲を許し、結局3対6で敗戦、ホーム連勝記録も17でストップしてしまいました。

27K ダンスコンテストチャレンジ in ハマスタ

ファンにはストレスの溜まる試合となりましたが、ただでは済まさないのが27期の真骨頂。ハマスタでは毎試合5回裏終了時にファンによるダンスコンテストが開催されます。これに皆で挑戦するという余興を楽しみました。

題して「27K ダンスコンテストチャレンジ in ハマスタ」。副題は「還暦を超えたオッサン集団がダンスに挑戦するなんてアホなことをいっぺんくらいやってみるのも悪くないんじゃないか」。

幹事が用意したブルーやレインボーカラーの色鮮やかなアフロヘアとお揃いのユニフォームを身にまとい、事前にYouTubeを参考に重ねたダンスの動きを遺憾なく発揮しました。オーラビジョンに映りこむという大目標の達成は来年以降に譲りましたが、20名を超える団体によるパフォーマンスは周囲の観客からも注目を浴び、ストレス解消にもなりました。

再会を約し

試合後は、関内駅北口の居酒屋に場所を移して懇親会。参加者の近況報告では、まだまだ現役でバリバリ仕事をしている者や、地域・社会貢献活動に尽力している者、半分リタイア生活で趣味の食歩歩きやゴルフ道にまい進する者、家族サービスや孫のお守りに生きがいを見出す者など、還暦を過ぎたばかりの第二の人生を各々謳歌している同期の姿を再認識でき、大変有意義な時間を過ごすことができました。次は、こちらも暫く中止していた同期の恒例イベントである大相撲観戦や母校でのソフトボール大会での再会を約し、この日のイベントは無事お開きとなりました。

幹事: 堀内英樹(文責)

副幹事: 金子 和、渋谷直人(27期)



関内居酒屋での懇親会 ▲

※WEBでの完全版では、東京オリンピックからパラリンピックの概観にはじまり、パラリンピックの創設における国内外の医師の関りや執念について概説され、ソーシャルスポーツと運動と精神医療の役割について論じられております。このアラムナイでは、その**冒頭部と、最終節から抜粋して紹介**させていただきます。是非、本編WEB版にお立ち寄りください。

はじめに

私は精神科医として、「季刊東京精神科病院協会雑誌153 2021年冬」の時評欄への執筆を2021年8月に依頼された。同誌を読んだ同期の畏友・藤村小弥太氏に同窓会誌への投稿を強く勧められ、応じたものである。昨年夏にタイムスリップして、一読していただければ幸いである。

…中略…

ソーシャルスポーツ、運動と精神医療

精神医療を受けている者にスペシャルオリンピックのような競技大会に参加させることは、治療中であるだけに難しいといわれるが、急性期についてはともかく、慢性期の統合失調症、うつ病や神経症については、グットマンが脊髄損傷患者のリハビリにスポーツを熱心に用いた行き方を見習う必要はあろう。

スポーツ精神医学

「スポーツ心理学」に遅れること約半世紀の1987年頃に「スポーツ精神医学」が生まれたが、スポーツ選手の診断と治療を目的としたものであった。プロスポーツ選手のメンタルヘルスの維持やメンタルトレーニングの必要性は、テニスの大坂なおみ選手のフレンチオープンでの記者会見ボイコットやうつ病罹病のカミングアウトで話題となったように、プロ選手ならではの過酷な心身の負担があり、スポーツ精神医学の出番である。

ソーシャルスポーツ

精神障害者のスポーツ大会が我が国で最初に開催され、組織化されたのは1999年といわれる。2001年に宮城県で第1回全国精神障害者バレーボール大会が開催され、2008年には、1965年以降毎年国民体育大会後に行われている全国障害者スポーツ大会にそれが組み入れられた。

2011年には精神障害者フットサルチームがイタリアに遠征、そして2016年には堺市で、第1回ソーシャルフットボール国際大会が開かれるまでに至っている。ここでいうソーシャルとは精神障害のある人に限らず、高齢者など誰でも気軽に参加できるという意味合いもある。筆者は既述の他の障害に伍して、精神障害者スポーツの国際組織・“メンタルオリンピック”の誕生を願っている。

精神科臨床での運動とスポーツ

最後に、大会や組織を離れて、精神科の臨床場面での運動、スポーツについて触れたい。**運動が不安や抑うつ、認知機能に効果がある**ことは脳科学的にも明らかにされているが、**統合失調症のレジリエンスを高め、リカバリーにも役立つ**との報告も出てきており、病院では早期から多様な患者に運動、スポーツをもっと取り入れる努力が望まれる。

体力・健康増進としての日々のラジオ体操や口腔体操はもちろん、競技を楽しみ、勝負に夢中になればより理想的である。勝利の喜びとそれで得られる活力と自信は障害の有無にかかわらず、人類に共通したものである。病院では卓球、バレーボール、フットサルなどが行いやすく、スペースが限られた所では輪投げ、ボッチャなども取り入れられよう。

一方、我が国の誇るべき学校行事であり、精神科病院でも広く行われている春秋の運動会はもちろん、夏の盆踊りは音楽と集団での踊りという、芸術と運動の優れたコラボであり、今後とも末永い継続が望まれる。

一人ででき、楽しめるものにウォーキングと散歩がある。スポーツ、体操ができない人でも可能であるので、外出可能な入院患者には必須のプログラムとしたい。最初はコンビニへの往復が“散歩”とされがちだが、本来の**散歩は目的のない道草の要素、気ままに小さな発見や楽しみも伴うものである**。それができるか否かで、病状の回復程度の診断にも役立つ。

外来患者でも億劫、だるさ、意欲低下で臥床、閉居がちとなり、人嫌いや不安症では外出自体が難関で、**外来通院が唯一の外出**という者も少なくない。犬を飼っていれば、犬に引っ張られての外出から始めるなど、時間、場所なども工夫して、なんとか**最初の一步**を踏み出す指導・支援が求められる。それには精神医療従事者自身がスポーツマインドを持つ必要があろう。

広瀬徹也(3期)

22.4.8

入学式から



学校長のことば(抜粋) 望月伸一郎校長



新入生のみなさん、入学おめでとうございます。みなさんの入学を、栄光学園のすべての教職員が待っていました。

新入生のみなさんは、人生の中で、とても大切な選択をして、今ここにいます。日本にはたくさんの私立中学校がありますが、そのなかでみなさんは栄光学園を選んでくれました。そして選んだのは、みなさんだけではありません。2月に行われた入学試験で私たちもみなさんを選んだのです。それぞれが選びあったことで、私たちがここに会うことができたということは、考えてみると本当に素晴らしいことだと思います。まさに相思相愛です。

さて、この時期は桜の花がきれいですが、栄光学園の敷地にも何種類かの桜があります。桜だけで実に600種類ほどあると言われていますが、校内の敷地を散歩していても、八重桜や枝垂れ桜など、今もまだ花をつけているものや、これから満開になる桜もあるのです。

みなさんも桜の花と同じです。いつどのような花が咲くのかは、みんな違うでしょう。早い人も遅い人もいるでしょう。でも一人一人、それぞれにとって最もよい時期に、最もよい形で、その可能性や才能・能力が、これから花開いていきます。そして、それぞれの種類の桜は、開花の時期や花の色・形が違うからこそ、見る人たちの目を楽しませてくれ、見ている人に喜びを与えるのです。みなさんも、もうすでに自分自身の中に素晴らしい花の種を持っています。

聖書には次のような言葉が書いてあります。『あなた方は地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何

によって塩味がつけられよう。(中略)あなた方は世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。また、ともし火をともして升のしたに置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば家の中のものをすべて照らすのである。そのようにあなた方の光を人々の前に輝かしなさい。』

『あなた方は地の塩である』、『あなた方は世の光である』塩は、わたしたちの生活でとても身近なものにして、必要不可欠なものです。だからといって、普段の生活の中で、塩だけを口にに入れることは、あまりありません。むしろ他の食材と一緒にすることで、他の食材の味を引き立てていくもの、料理の中の味付けとなって初めて生きてくるものです。

ともし火としての光も、周りを照らし明るくすることによって、初めてその意味が生じてきます。私たちは誰もいない部屋の照明は消しますし、逆にわずかな灯りでもないと、何も見ることができません。

様々な植物の花が、見ている私たちに喜びを与えるのと同じく、塩や光は自分以外のものとの関係のなかで、はじめてそのかけがえのなさが現われるのです。

自分自身の存在を、自分以外の他者の幸せのために活かしていったときに、わたしたちは初めて地の塩、世の光となります。でも、自分はそんな塩や光になることはできるのだろうか、自分にはとても無理なのではないか、と思うかもしれません。しかし、先ほどの言葉をもう一度よく注意してみると、地の塩や世の光になりなさいとは言っていないのです。「あなた方は地の塩である」「あなた方は世の光である」と言っているのです。砂場の砂に向かって「塩になれ」といっているわけではありません。実はもうすでにみなさんは「塩」であり、「光」なのです。周りを引き立たせること、周りを照らすことがすでにできるのです。

桜には何百種類もあるように、その塩味や光の種類は一人一人異なると思います。でも、みなさんはすでに塩であり光なのです。そのことを忘れずに、自信をもってこれからの6年間、栄光学園で学んでください。

新入生代表の言葉(抜粋) 76期 T.M.君

鎌倉の山々からは鳥のさえずりが聞こえ、暖かな春がやってきました。今日、私たち栄光学園第76期生も、待ちに待った入学の日を迎えます。四月八日は四月の四(し)と八日の八(はち)で「出発の日」でもあります。まさに、私たちの入学式にふさわしい日ではないでしょうか。いつも支えてくれる家族や、今日温かく迎えてくださった方々への感謝の気持ちを忘れずに、六年間過ごしていきたいです。

四年生のときには栄光祭に足を運び、きれいな校舎や広い校庭に圧倒され、受験してみたいと考えるようになりました。その後は新型コロナウイルス感染拡大のため、栄光学園のイベントなどに参加する機会はありませんでした。しかし、そのような状況だったからこそ、これから新しい発見や楽しみがたくさんあるのではないかと、期待で胸がいっぱいです。

私は体を動かすことが好きなので、広い校庭で走り回ったり、友達と遊んだりすることがとても楽しみです。運動部にも入りたいです。一方で、趣味である折り紙のサークルを立ち上げ、多くの人に折り紙の魅力、楽しさを伝えたいとも考えています。

ここで、私の折り紙についての考えをお話します。私は幼い頃から折り紙が好きで、最近では少し難しい作品に挑戦することもあります。一見地味な折り紙ですが、そこから学ぶこともたくさんあります。それは、協力すること、ごまかさないうこと、基礎・基本をしっかりと身につけることの大切さの三つだと思います。

折り紙の作品は、基本的には一枚の紙から折りますが、一枚の紙では表現できないものもあります。人間も、一人ではどう頑張ってもできないことがあります。何枚かの紙を使う作品や、パーツをたくさん組み合わせて作る作品のように人間も協力したり、人に頼ったりすることが大切です。

また、難しい作品を折っていると、分からない工程が出てきます。その工程を飛ばしたり、自分が折れるように簡単にしてしまうことがあります。日常生活でも、嘘をついたりごまかしたりしてしまうことが誰にでもあるでしょう。しかし、ごまかしたり、楽をしたりすれば、完成した作品からわかってしまいます。それは人間にも言えることだと思います。

そして、折り紙は、はじめに折り筋をつけることが最も重要です。折り紙の作品は折り筋を使って折っていくので、折り筋が雑だと汚い仕上がりに、折り筋が丁寧だと綺麗な仕上がりになります。折り筋が作品の仕上がりを左右するのです。人間も同じです。勉強やスポーツなど何事も基本が大切です。基本がしっかりしているかどうかによって、さらに成長できるかどうかが決まると言ってもよいでしょう。ですから、最初に折り筋を正確につける必要があります。

私は栄光学園でのこれからの六年間の生活は、人としての基礎を学ぶ、つまり折り筋をつける期間だと考えています。栄光学園で正確に折り筋をつけ、ここにいる仲間たちと支え合い、いつも誠実でありたいと思っています。

今、世界は大変な状況に置かれています。誰も予想しなかったことが次々と起こり、様々な問題が発生しています。今は無力な私達ですが、「MEN FOR OTHERS, WITH OTHERS」の精神を身につけ、社会に貢献できる人になれるよう成長していきたいです。





進路情報

2022年度入試は、第2回を迎えた大学入学共通テストが初年度に比べて多くの科目で難化し、想定通りの得点ができずに戸惑った生徒も少なくありませんでしたが、多くの生徒が当初の志望通りの大学に出願して受験に臨みました。コロナ禍でさまざまな不自由がありながらも、生徒たち

は最後の最後まで非常によく頑張りました。また、今年度は、既卒生たちの頑張りが例年以上に目を引いた入試でもありました。進路進学委員会としては、引き続き、生徒の志望状況や入試動向を注視しつつ、丁寧な進路指導に努めていきたいと考えています。

国公立大学	2022		2021		2020		2019		2018		2017		2016		2015		
	総数 (進学)	現役 (進学) 70期	総数	現役 69期	総数	現役 68期	総数	現役 67期	総数	現役 66期	総数	現役 65期	総数	現役 64期	総数	現役 63期	
東京大学	文科一類	10 (10)	9 (9)	7	5	6	6	11	10	16	13	10	7	11	6	5	4
	文科二類	7 (7)	3 (3)	8	7	7	7	6	3	14	12	10	6	11	6	10	7
	文科三類	6 (6)	2 (2)	7	5	5	2	6	4	6	2	6	1	7	5	2	0
	理科一類	21 (21)	13 (13)	18	12	29	17	22	13	30	21	25	17	19	15	19	13
	理科二類	10 (10)	4 (4)	6	4	7	5	8	3	9	1	7	4	6	6	6	5
	理科三類	3 (3)	3 (3)	0	0	2	1	0	0	2	1	4	3	3	3	1	0
	推薦	1 (1)	1 (1)	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	-	-
	後期	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
合計	58 (58)	35 (35)	47	34	57	39	54	34	77	50	62	38	57	41	45	31	
一橋大学	8 (8)	8 (8)	9	4	10	9	11	6	10	7	6	3	12	5	10	7	
東京工業大学	14 (14)	9 (9)	4	2	5	4	14	6	6	4	2	1	9	5	5	4	
北海道大学	11 (8)	5 (3)	4	3	5	4	7	4	7	1	5	2	5	1	7	0	
東北大学	1 (1)	1 (1)	5	1	4	2	3	2	3	2	4	0	2	0	1	1	
京都大学	9 (9)	5 (5)	4	2	6	5	7	5	3	1	6	1	10	8	4	0	
大阪大学	0 (0)	0 (0)	2	1	0	0	0	0	2	1	0	0	3	1	1	1	
東京医科歯科大学	0 (0)	0 (0)	2	2	1	1	5	5	4	3	3	3	1	1	3	2	
横浜国立大学	5 (4)	3 (3)	10	4	12	7	13	11	7	6	13	8	9	3	4	4	
横浜国立大学	10 (9)	6 (5)	4	3	5	4	4	3	8	5	6	5	6	5	5	4	
その他(医歯系)	8 (4)	1 (0)	14	7	13	7	10	5	13	8	13	7	14	5	18	10	
その他(上記以外)	17 (10)	9 (4)	16	8	10	3	11	7	9	1	11	5	16	3	3	2	
私立大学	2022		2021		2020		2019		2018		2017		2016		2015		
	総数 (進学)	現役 (進学) 70期	総数	総数	総数	総数	総数	総数	総数	総数	総数	総数	総数	総数	総数	総数	
慶應義塾大学	文	2 (1)	1 (1)	3	2	1	2	1	2	1	1	1	1	3			
	経済	19 (6)	8 (2)	21	21	29	31	19	21	19	21	19					
	法	3 (1)	3 (1)	5	3	4	2	2	2	4							
	商	17 (1)	9 (1)	10	9	7	13	8	14	8							
	理工	37 (9)	25 (6)	24	40	37	32	35	29	25							
	総合政策	6 (1)	3 (0)	1	3	1	2	3	2	3							
	環境情報	7 (2)	4 (1)	2	1	0	4	2	0	2							
	薬	3 (0)	0 (0)	2	1	4	3	2	4	4							
	医	3 (0)	1 (0)	1	5	3	4	7	4	2							
	学部不明	0 (0)	0 (0)	0	0	0	0	0	0	4							
合計	97 (21)	54 (12)	69	85	86	93	79	77	74								
早稲田大学	政治経済	19 (5)	9 (3)	20	9	14	21	18	23	10							
	法	14 (1)	8 (1)	9	6	7	15	9	10	12							
	文	1 (0)	0 (0)	4	4	7	1	6	3	3							
	文化構想	2 (0)	0 (0)	3	5	2	3	0	4	4							
	教育	7 (0)	1 (0)	3	2	2	2	2	4	1							
	商	7 (1)	4 (1)	6	3	4	10	7	8	5							
	国際教養	1 (0)	1 (0)	0	1	2	1	2	8	7							
	基幹理工	15 (2)	10 (1)	18	14	9	9	8	7	8							
	創造理工	9 (2)	7 (1)	3	9	15	14	11	6	5							
	先進理工	12 (3)	6 (2)	7	17	19	12	17	11	14							
	社会科学	6 (3)	0 (0)	3	1	6	10	3	8	6							
その他	7 (0)	3 (0)	5	3	4	3	2	3	2								
合計	100 (17)	49 (9)	81	74	91	101	85	95	77								
上智大学	36 (8)	19 (7)	29	14	22	7	4	13	12								
東京理科大学	47 (2)	18 (1)	39	31	45	43	44	29	38								
中央大学	17 (2)	4 (2)	30	22	13	37	11	24	14								
立教大学	12 (1)	1 (0)	10	8	4	4	4	5	6								
明治大学	43 (4)	6 (3)	39	40	43	49	38	52	32								
その他(医歯系)	17 (5)	6 (1)	14	31	13	24	25	21	12								
その他(上記以外)	58 (7)	18 (2)	53	70	58	59	25	73	55								
海外	2 (1)	2 (1)	5	5	-	3	-	-	-								

※2022.4.6 判明分まで

第75回栄光祭 スローガン「VERTEX（頂点）」 実行委員長の言葉より抜粋



今年の栄光祭でも多くの制限がありました。食品は出せず、入場も人数制限があり事前予約必須の4部制。しかし制限のある中で開催となったからといって、今回の栄光祭が「欠けた」ものになったとは全く思いません。それは開催当日あらゆる催し物が自分たちも楽しみつつ全力で来場者を楽しませ、来場者もまたそのエネルギーを受け取っている様子を見ることができたからです。「関わる人全員が楽しめることを前提に、来場者に栄光生の文化を一次情報として力強く届ける」という、個人的に一番大事だと思っている役割は達成できたと思っています。



今年のスローガンを階段装飾で ▲



▲盛り上がってますか〜！



▲中学1年生も早速のおもてなし！

22.6.14

中3 日帰り遠足 (74期)



6月の遠足は、秋に行く富岡の学年行事に向けての事前学習を兼ねています。横浜と絹の歴史を考えることを目的に、新港埠頭を中心に行いました。クラスごとに異なるルートをとっていきました。企画運営を行った前期クラス委員たちの感想を抜粋してみました。

中3 S.K.君

学校内でのHRの運営に携わったことはあるのですが、今回のように外の社会へ出て皆をまとめるというのは、それよりも遥かに大変でした。しかし、学校外での活動が少なかった74期の一員として、今回運営に携わることが出来、そして多くの新たな学びを得られたことを嬉しく思います。

中3 T.Y.君

時間の管理が難しかった。D組は午前中に街を回り、午後には博物館に行く予定だったが、実際には街を回るのが思ったよりも早く終わってしまい、午後に行く予定だった“大さん橋”に午前中に行く羽目になった。一方、遠足自体は大成功だったと思っている。行く予定だった箇所はすべて回

ことができ、曇り空で小雨も降ってはいたがよい景色を見ることができたので、とても楽しかった。

中3 M.Y.君

今回の横浜遠足は特に大きな事故も起こらず、楽しむことが出来ました。僕はこれまでこうした学年行事の運営をした経験が無く、クラス全員を学外で引率しことももちろん初めてだったので上手く出来なかったこともありましたが、クラスみんなが点呼や声かけなど協力してくれてとてもありがたかったです。



無事に合流できました ▲

2022年度 同窓会定期総会議事報告(1)



【日時】2022年5月21日(土)13:15~14:35

【場所】アロイジオ会館、Web会議(Zoom利用)の併用

新型コロナ対応のため、アロイジオ会館での出席とZoomによるオンライン出席の並列方式で開催となること、議決権行使書のみ提出して出席されていない代議員についても、出席扱いとする。

【出席者】(カッコ内の数字は卒業の期)

会長:山田宏幸(30)

副会長:青木嘉光(10)、高橋英治(28)、河原光博(37)

会計監事:原田清朗(24)、上甲雅敬(33)

事務局長:前山茂雄(13)

常任委員:【部長】米山 操(30)、村井基彦(37)、大須賀喜彦(39)、近藤亮介(45)【副部長】川村貞知(37)、齋藤琢郎(42)、米村俊彦(43)

東海林 修(2)、八木英樹(9)、近藤一郎(10)、太田元夫(11)、大島弘尚(14)、菱沼徹臣(17)、早川光敬(18)、関根修一(20)、平島 寛(24)、島崎裕之(26)、佐藤耕太郎(27)、増木洋介(30)、壺岐 太(32)石田明久(51)

幹事:大和智明(39)

支部役員:古谷哲夫(物理部OB会、21)、金子 和(茅ヶ崎栄光同窓会、27)、水島一郎(バドミントン部OB会、28)

各期委員:佐伯和良(3)、鈴木頭一(6)、石川俊克(7)、齋藤肇(7)、奥山 巖(11)、杉浦俊紀(16)、須佐喜和(28)、古橋耕仁(33)、小野山 航(69)、伊藤夏熙(70)、大嶋恵弥(70)、大東雅治(70)、中畑 樹(70)、廣田樹音(70)

総計 46名、議決権行使書による回答者 81名
有効投票者数合計 127名

来賓:望月伸一郎 校長

議長:出席委員の互選により、増木洋介常任委員(30)



学園校長挨拶(望月 伸一郎 校長)

学園への活動に対する卒業生の皆さまの日頃からのご支援に心から御礼申し上げます。昨年度からスタートした“未来EiKO募金”については、年間で3,386万4,000円(882件)の寄付がありましたが、大半が卒業生の皆さまからの寄付でした。特に野球部OB会では、野球場の土の入替工事計画にあたり、多くのご寄付を頂きました。また、今年度の募金についても、会報アラムナイに案内を同封頂いています。教職員を代表してお礼を申し上げます。

今年は、聖堂ホールにおいてフォス初代校長没後30年記念展示も開催されています。栄光祭でも展示頂きましたが、在校生・保護者だけでなく、外部の小学生や保護者の方にもご覧頂き、特に外部の方からは、「栄光学園の特色が良くわかりました」というアンケートも頂戴しています。学園の精神の継承という精神的な面でも、同窓会の皆さまにも力添えを頂いているということ学園側も心強く感じると同時に、強い励ましを頂いていると感じております。

学園の活動については、コロナは収束していませんが、感染に注意しながら、出来るだけ日常を取り戻していこうということで、先週の栄光祭も実施し、この後も体育祭に向けて準備しているところです。同窓会総会もリアルな形で3年振りの開催ということで、3年分の学園の近況を詳細にお話しすると、1~2時間程度を頂戴することになりますので、こちらについては、別途アラムナイ誌に寄稿する形とさせて頂ければ有難いです。本日は、誠に有難うございました。

会長挨拶(山田宏幸会長)

本日はお忙しい中、2022年度総会に出席頂き有難うございます。本日の総会はコロナ禍を踏まえ、Zoomと人数を制限したリアル参加でのハイブリッド形式で開催しています。一昨年は書面だけの総会、昨年はZoomと書面による開催、そして今年は人数を制限しているもののアロイジオ会館にご出席を頂いての開催ということで、少しずつコロナ前に近づいている感があります。

また、コロナ禍でZoom等のWeb環境が整ったことで、お忙しい方や遠方の方にもご参加頂くことが可能となり、コロナによって実現された同窓会活動の多様化・進化ではないかと考えます。今年の総会は、新会員70期生を迎え、議題として、2021年度決算に関すること、2022年度事業計画に関すること、2022年度収支予算案に関することの3議案をご審議頂きます。会長として、2021年度の取り組み方針・考え方、抱負等については、節目でアラムナイ誌や同窓会HPでご報告させて頂いているので、この場では割愛させて頂きます。

会長に就任して5年、基本的には同じコンセプトで進めてきたと考えています。2022年度は、良い意味でコロナ禍での同窓会活動にも慣れ、更にはコロナ禍だからこそ取り組みたい事業計画等も積極的に案に盛り込んでいます。何事も前向きに捉えて、「人を繋ぐ、人が繋がる同窓会」の実現に向けた事業計画、予算案としているつもりです。限られた時間ですが、実りある総会となります様に、宜しくお願い申し上げます。

第1号議案:2021年度決算承認に関する件

- (1)2021年度収支計算書(2022年度予算案を参照)
- (2)貸借対照表
- (3)監査報告書

近藤財務部長より、2021年度収支計算書及び貸借対照表について説明が行われた。概要は以下の通り。

(1) 収支計算書

【収入の部】当期収入は、[]で予算比[]のプラス。過年度会費収入が[]多かったことが主因。コンビニ払い導入の効果と思料。

【支出の部】大半の項目が予算比マイマス、予算策定時はコロナ収束も見越して計画したが、結果的には2021年度もコロナ影響で同窓会活動に制約があったもの。総務費のうち、印刷費が予算比[]となっているが、昨年3月に封筒を多めに印刷したため。事業費のうち、会報印刷費が少なくなっているのは、ページ数が少なかったため。また事業費は全般として同窓会活動のコロナ制約もあり予算比マイナスとなっている。結果、当期支出は[]となった。

【収支】2021年度の収支は、予算上は[]の赤字予算だったが、[]の黒字となった。

(2) 貸借対照表

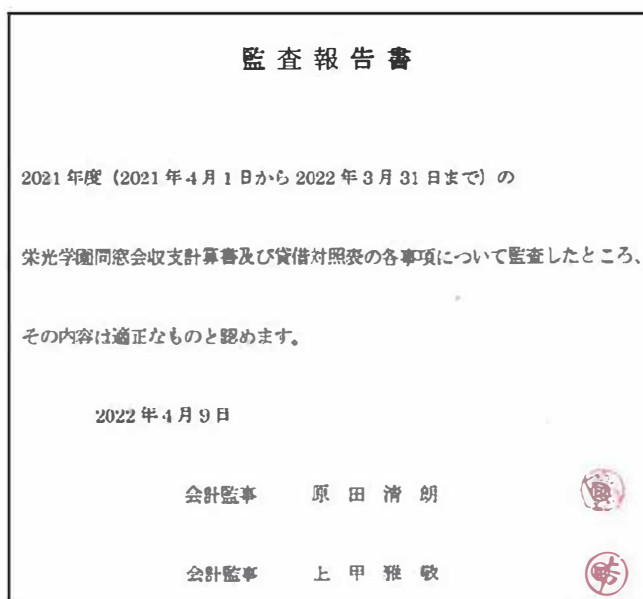
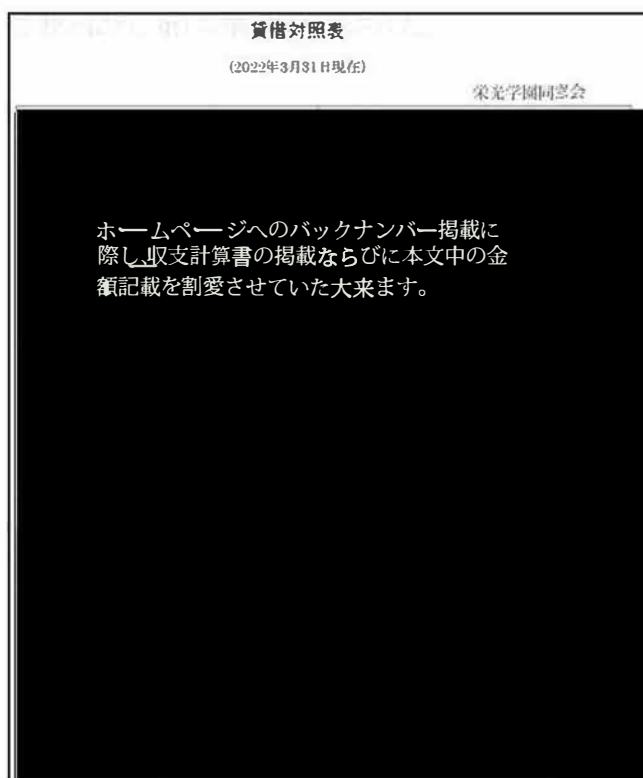
2022年3月末の資産合計は、[]。負債について

は、翌期以降の会費に対応する前受金[]、差引の正味財産は、[]

(3) 監査報告

会計監査報告書(議案書14ページ)につき、上甲会計監事から「コロナ禍のなか4月9日にリモートでの監査を行ったが、監査報告書にある通り、2021年度の栄光学園同窓会収支計算書及び貸借対照表の各事項について監査を実施し、その内容は適正なものと認める」との報告があった。

第1号議案に関する質問・意見の有無の確認を行った。その後、議長が議案の可否を諮り、アロイジオ会館及びオンライン出席者による賛成と議決権行使書分と併せ、賛成



2022年度 同窓会定期総会議事報告(2)



第2号議案:2022年度事業計画承認に関する件

2022年度は、引き続きコロナ禍下での同窓会運営となる。この状況でも、“人を繋ぐ、人が繋がる同窓会”を促進するため、Web環境を充実させ、積極的に活用することで事業を進める。また、コロナの状況を踏まえ、従来の対面での事業実施を検討する。

同窓会HPのさらなる充実、その同窓会HPとの連携強化・すみ分けを踏まえた会報The Eiko Alumniの全面リニューアル、EACONによる名簿情報の充実と会員相互の情報共有、利便性の向上を促進する。OBフォーラムを進化させ、Web環境を利用した新たな形を定着させるとともに、対面での参集が可能となった際には、OBフォーラムを多様なスタイルで展開する。イエズス会校4校同窓会の共同イベントについても、同様の考え方で協議し、実施する。

グスタフ・フォス初代校長先生ご帰天後30年特別展示企画は本日実施。学園のアーカイブ情報の整理に引き続き協力し、フォス校長特別企画等の常設展示も学園と協議する。アーカイブ情報のホームページ掲載なども進める。

コロナ禍下における同期会・支部の活性化を促すとともに、必要な支援を行う。各委員会・支部会・イベントなどを端緒に、引き続き若手委員・幹事の発掘に努める。コロナ禍下において全ての会員が安全に、また中堅・若手の委員・幹事・会員が、積極的かつ気軽に、同窓会事業に関われるよう、Webの活用等を工夫する。

財政については、将来の見通しと“会費”と“事業”のあり方について整理・検討をさらに進める。会費納入率向上のための納入方法に関し、導入した新手法を検証し、さらなる改善を検討する。

新たな時代を迎え、学園も様変わりする中で、『栄光学園同窓会のビジョン検討』特別委員会からの答申をベースに、本事業計画を策定。従来の事業に加え、2023年の同窓会70周年の企画を検討するとともに、多様に「繋がる」た



めの、会員が自由に参加できる自主的な活動への支援についても、適否を見極め前向きに進める。

学園・後援会・姉妹校同窓会との連携を強化するとともに、学園の「未来EiKO募金」についても、趣旨を踏まえ、引き続き広報活動等への協力を適宜実施する。

【意見】 事業計画には大いに賛成するが、支部活動に関して意見する。現在支部の活動は、地域や職場の活動等一部にとどまっている。ヨコの繋がりでなく世代を越えるタテの繋がりを強めることも大事であり、地域や職場等のタテのつながりを深める取り組みの支援もお願いしたい。

【回答】 ご指摘の点は同窓会でも強化すべき事項と考えている。タテ・ヨコ・斜めと同窓会員の繋がりを強化したい。コロナ前には、組織として新たに活動サポート部を立ち上げ、支部活動等の支援を行い、関西支部・北海道栄光会が同部のサポートもあり設立された経緯もある。残念ながらコロナ禍のなかでリアルな会合にも制約があり、こうした取り組みに影響が出た。コロナが収束に向かいつつあるし、広報体制も見直しているため、ホームページやアラムナイ誌等で積極的に呼びかけたいと考えている。

【意見】 私も執行部の活動サポート部長時代にはそうした問題意識を持って対応した。一方、執行部サイドで支部を作ろうと勧誘しても、基本は各地域の対応となる。執行部と各地域の連携でさらなる活性化をお願いしたい。

【意見】 歴史文学散歩は、毎回10~20名参加しているが、メンバーが固定化傾向にある。密を回避するという観点から土曜日ではなく平日開催となっているが、是非新しいメンバーの参加もお願いしたい。

【質問】 総務部事業計画にある同期会・支部・活動グループに対する「支援」は、具体的にはどのようなことを想定しているのか？

【回答】 例えば、Webでの活動に対しては、事務局が取得しているZoomのライセンスを提供することが可能。また、機材が必要な際にも必要に応じてサポート(同窓会からの貸与)することも想定しており、ご相談頂きたい。

【質問】 活動に際しては、アロイジオ会館を利用することは可能か？

【回答】 アロイジオ会館の利用は学園とは切り離されているものの、コロナ対応については学園の基準に沿って対応している。適宜事務局に照会頂きたい。

【質問】 JJHAFに関して、総務部事業計画では「リアル会合の開催」、事業部計画では「オンライン開催」とされているが、その意味を改めて確認したい。

【回答】 総務部の記載は、各同窓会の執行部の連絡会をリアルで開催するという趣旨で、事業部の記載は、会員が参加する支部イベントをオンラインで検討というものである。

質問・意見聴取の後、議長が議案の可否を諮り、アロイジオ会館及びオンライン出席者による賛成と議決権行使書分と併せ、賛成多数と認め、第2号議案は承認された。

第3号議案:2022年度収支予算案承認に関する件

近藤財務部長より2022年度収支予算案について、説明が行われた。概要は以下の通り。

【収入の部】当期収入合計

は、XXXXXXXXXXの予算としている。2022年度は会員数の多い第1グループとなっており、前受金収入が大きい。

【支出の部】総務費について

は、基本的には2021年度の実績をベースに予算策定。印刷費は2年平均のXXXXXXXXXXの予算。器具備品はXXXXXXXXXXと大幅に予算を増額、これは同窓会事務局のIT機器が老朽化しており、PC・プリンター買い換え、WiFi中継器等の購入も予定している。事業費については、会報印刷費は、アラムナイのリニューアル(カラー化)を受け、予算を増額。フォス校長特別展のパネル代と等の運営費としてXXXXXXXXXXを計上。また、リアル活動の活発化も想定し、グループ活動支援費XXXXXXXXXX等の積極的に予算を組んでいる。結果、当期支出の合計はXXXXXXXXXXの予算となっている。

【収支】その結果、2022年度の収支は、XXXXXXXXXXの赤字予算となっている。

		(単位:円)	
収入の部		(ご参考)	
科 目		2021年度実績	予 算
1. 前年度繰越金			
2. 当期収入			
入会金収入			
当年度会費収入			
過年度会費収入			
名簿広告収入			
受取利息収入			
雑収入			
前受金収入			
(調整勘定)			
前期末前受金			
当期収入			
収入の部合計			
支出の部			
1. 総務費			
給与			
通信費			
印刷費			
事務用品費			
会議用品費			
器具備品費			
手帳費			
雑費			
予備費			
小計			
2. 事業費			
会員リスト印刷費			
会報印刷費			
発送費			
編集取材費			
ホームページ運営費			
コンテンツ作成費			
ホーム・カミング・デイ運営費			
フォス校長特別展運営費			
支部・活動グループ等支援費			
OBゼミ運営費			
栄光OBフォーラム運営費			
JHAF等活動費			
同窓会記念品製作費			
寄付金			
小計			
当期支出合計			
次年度繰越			
3. 支出の部合計			
収			
支			

表:2022年度収支予算案(ご参考の2021年度事業費は、2021年の決算額(第1号議案)になります)

【質問】 コロナが収束に向かう中で、同窓会活動の活発化に伴う支出の増加も予想される。もう少し詳しく説明をお願いしたい。

【回答】 例えば、フォス校長特別展示も2年前から計画していたが、コロナで延期となり、今年度の開催となって支出が発生する。また、支部・活動グループ等支援費も昨年度はXXXXXXXXXXの支出にとどまっていたが、今年度は支部活動も積極的に行われるだろうという想定からXXXXXXXXXXに大幅に予算を増やしている。加えて、栄光OBフォーラムもリアル開

催を目指しており、XXXXXXXXXXの予算を組んでいる。

質問・意見聴取の後、議長が議案の可否を諮り、アロジジオ会館及びオンライン出席者による賛成と議決権行使書分と併せ、賛成多数と認め、第3号議案は承認された。

※ 尚、総会議案書および議事録については同窓会WEBに掲載されております。詳細についてはそちらをご覧ください。



2022年度は32期・42期

2022年度OBゼミは、32期(11回)と42期(12回)が担当しています。下記は実施済み講義と担当講師の一覧です。


- 「何故コンサルティング会社が人気なのか？」
北 俊一(32期)
野村総合研究所(テレコム・メディア担当)
- 「医者・研究者・教育者として」
宮崎 泰成(32期)
東京医科歯科大学大学院 教授
- 「医系技官という仕事 ～医者と役人、二足の草鞋～」
福田 光(32期)
広島県東部厚生環境事務所・保健所 保健所長
- 「JAXAの今、そして未来へ ～宇宙航空活動のさらなる挑戦～」
山川 宏(32期)
宇宙航空研究開発機構(JAXA) 理事長
- 「将来の夢がない自分が歩んできた職業人生」
譲原 理(32期)
AOI TYO Holdings株式会社 取締役グループCFO
- 「資産形成としての投資、職業としての投資」
菊池 真(32期)
ミョウジョウ・アセット・マネジメント株式会社 代表取締役
- 「情報があふれる時代に ～公共メディア・NHKの仕事～」
宮本 英樹(32期)
NHKグローバルメディアサービス 専務取締役
- 「サッカー(スポーツ)ビジネスの楽しさ、好きこそ物の上手なれ」
利重 孝夫(32期)
シティ・フットボール・ジャパン代表、他数社の外部顧問



第15回OBフォーラム開催 22.7.9

第15回OBフォーラムは2022年7月9日に、Zoomによるオンラインにより開催されました。31期が企画を担当し、東京農工大学・教学統括副学長の三沢和彦さんと、藤沢湘南台病院法人・統括戦略本部長・常務理事の藤井真さんが講師を担当されました。大学経営と病院経営と対象は異なるものの、人材育成と組織的戦略が共通テーマとなっており参加者にとって大変に面白い構成の講演になりました。講演を通して、単に改革をするだけでなく、その見える化が組織内だけでなく、組織外への広報との連動の大事さにも気付かされます。大学の将来構想の難しさや、病院の広報動画としては斬新な誕生秘話などは必聴です。第15回フォーラムの様子をYouTubeで公開しています。QRコードよりご覧ください。

※同窓会期間限定公開です。無断転載・二次使用は厳禁です。



新世代に生きる国際高等教育への挑戦
三沢和彦(31期)
東京農工大学 教学統括副学長

EIKO 栄光学園同窓会
EIKO OB FORUM

2021年7月9日

第15回 栄光 OBフォーラム on Line


新世代に生きる国際高等教育への挑戦

気候変動や生物多様性の損失、エネルギー枯渇、さらには新興感染症などの様々な地球規模課題を解決するためには、高度な科学技術・イノベーションを積極的に活用し、かつ教育・経済・外交の面でモセティオブルな視点から統合的に取り組む高等教育機関が必要です。

新世代の国際的な高等教育には、(1)多数の大学・公的研究機関および企業などが協働して連携を推進するオープン・イノベーション、(2)多様な分野での機軸性を生かしたスタートアップ型の二つの方向性が求められます。本講演では、この二つの方向性から、近未来に国際社会で活躍する人材を如何に高等教育機関が輩出するか、について論じます。

三沢和彦 (31期) 国立大学法人東京農工大学 教学統括副学長

1992年3月に東京大学大学院理学系研究科物理学専攻博士課程を修了し、博士(理学)を取得。東京大学助手、東京農工大学大学院助教、同教授。2011年から2年間、文部科学省研究振興局学術調査官を併任し、以後、高等教育行政に専事するようになる。日本物理学会理事、文部科学省科学技術・学術審議会専門委員、等を兼任。2017年より東京農工大学工学部研究員(工学部長)として、2022年4月からは現職で、新世代の高等教育を実現するための学部組織刷新改革を推進している。



人に投資する、人を動かす
-コロナ禍の経営戦略、そして磯釣り-

藤井 真(31期)
藤沢湘南台病院 法人統括戦略本部長・常務理事

EIKO 栄光学園同窓会
EIKO OB FORUM

2021年7月9日

第15回 栄光 OBフォーラム on Line

人に投資する、人を動かす -コロナ禍の経営戦略、そして磯釣り-

進化競争が激化してがん治療に20年間費やした。40代前半、このままでは3つの病気の併発に、院長、常務理事・理事長といふ立場で関わってきた。病院経営戦略にたいして重要なことはなにが、そこには集出した分析、戦略策定、実行の力に不足が。診療報酬というもののなかでどうやって医療において、分析、戦略策定まではそれと並進することばかり、それを実行し成功に導く過程が解決すべきハードな仕事である。その結果、病院の経営がコロナ禍で病院経営が危機を懸念した。コロナ禍、分析し、このように戦略を推進して来たが、人に投資する、人を動かす、技術を示し出す。

また、その中でも130代後半で東京大学医学部付属病院を離れる選択をした。そこには私の医師としての考え方と人生における価値観があります。若者さん最優先の医療を自分の理想を100%反映できる場でも実践したいと考えると同時に、家族との時間、栄光との時間と大切にしたいと考えました。

90歳にのっけの半端ともいえるほどに熟している磯釣りの戦略(魚を動かす)も改めてお話しさせていただければと思います。

藤井 真 (31期)

東京大学医学部医学科卒業、東京大学医学部附属病院外科卒業 医学士取得
東京大学医学部付属病院大腸肛門科(旧第一外科)所属
医療法人財団湘南台病院(若津) 院長兼大和病院院長・常務理事 (2008-2018)
一般財団法人同窓会藤井真樹財団(同窓会) 統括戦略本部長・常務理事 (2019)
特別企画委員会 学術・研究・学術委員会 副委員長兼理事 (2021-2022)
栄光学園学校長、栄光学園会館理事長、神奈川県医師会理事



名利池上本門寺から文士村を歩く 22.4.26



21年度4回目の予定でしたがコロナの沈静化を見定め1ヵ月延期で実施しました。当日の天気予報は芳しくなく、10名の参加にとどまりました。

東急の池上駅前に集合し、池上本門寺を目指し門前町の風情が残る街並みを抜けると、加藤清正在寄進したと言われる96段の階段が現れました。我々は右手のエレベータに乗り、仁王門から大堂に向かう広場で集合写真を撮りました。この名利は、日蓮聖人が身延山から病氣療養のため常陸に向かう途中にこの地でなくなり(1282年)、「日蓮聖人ご入滅の地」として法灯を伝えています。江戸時代には幕府の庇護もあり大伽藍を形成していましたが、昭和20年4月の大空襲によりほとんど焼失してしまいました。復興した大堂・本殿めぐり日蓮聖人の御廟所に着く頃には小雨が降り出し、裏手の墓地を進むと「力道山の墓」にたどり着きました。彼は昭和30年代にプロレスブームを巻き起こしたが急死し、田浦世代の栄光生には白黒テレビでの懐かしい人物でした。

この山を下り、本門寺公園を巡る頃には本降りになってきたので、昼食は川端龍子記念館階下のベンチでとってから見学しました。この記念館は日本画壇巨匠川端龍子の文化勲章受賞を記念に建てられ(1963年)、現在は大田区立となっており、屏風のように連なる大型の作品が並び見応え充分でした。

記念館から続く600メートルの通りは「馬込桜並木公園」と

呼ばれ、桜の満開の時期には「馬込文士村桜まつり」が開催されるれそうです。この一帯は大正末期から昭和にかけて多くの文化人が居住し、互いに交流しながら芸術活動を行ったと言われ、多く史跡、記念館がありました。残念ながら雨のため諦めて、地下鉄西馬籠駅で解散しました。

大島弘尚(14期)

薔薇の花菜ガーデン散歩 22.5.12

今回の散歩の会の目標は、平塚にある花菜ガーデンである。平塚駅前からバスに20分ほど乗って平塚養護学校前で降り、歩いて5分のところにあった。午前11時頃入園し、集合写真を撮り、簡単に自己紹介をした。出席者は21人。

9.2ヘクタールの広さだが平地なので歩きやすかった。長方形の園の境界に沿ってかなりの幅でバラが植えられていて、今が盛りだった。どれも標準的な八重のバラだが色はいろいろあった。赤、黄、バラ色、白など。ある場所には香りの強い種類が集められていた。また、何か所かにドーム状の門が作られていて、その形に添ってバラが巻き付けてあった。写真を撮りながらゆっくり巡って1時間ほどかかった。こんなに豪華に咲くバラの大群を見たのは初めてで十分楽しむことが出来た。

子供の頃によく見た花をその後も好ましく思うようである。小学生の頃私の家の近くにバラを植えている家があり、季節になると白い大きな花を咲かせた。今年もまた咲いたなどと思いながらその家の前を通ったものである。また、夏休みにはしばしば近所の仲間と近くのおっとも海岸に泳ぎに行った。住宅地を抜けると海に続く広い空き地があり、その道路際の一角に低い塀に囲まれた平屋の家があった。門を中心につるバラが巻き付けられていて、その時期には白い花を咲かせていた。それらが私には異国風に感じられて、そこを通るのが好きだった。そんな体験が積み重なって今でもバラは好きな花である。

須藤眞樹(8期)



● 訃報(2022年3月1日以降判明分)

教職員

稲田 順一 先生 (物理) 2022年 8月28日

卒業生

高島 幸成氏	(34期)	2015年 2月17日
河内 司氏	(45期)	2020年 2月15日
藁目 邦良氏	(15期)	2020年12月16日
久保田 純一氏	(50期)	2021年 4月17日
井野 祐一氏	(6期)	2021年 4月21日
清水(旧姓宮本) 祥史氏	(33期)	2021年 7月19日
水谷 端氏	(4期)	2021年 8月14日
長谷川 利夫氏	(11期)	2021年11月20日
豊住 吉弘氏	(34期)	2021年 8月17日
内野 徹氏	(14期)	2021年12月19日
橋本 純氏	(17期)	2021年12月23日
柏木 義憲氏	(11期)	2022年 1月17日
島田 明氏	(9期)	2022年 1月22日
馬場 一基氏	(10期)	2022年 2月22日
小林 明洋氏	(21期)	2022年 3月 3日
白石 隆氏	(3期)	2022年 3月12日
藤岡 泉氏	(4期)	2022年 3月16日
有賀 英樹氏	(11期)	2022年 3月21日
丹野 眞氏	(13期)	2022年 3月21日
中谷 史郎氏	(4期)	2022年 3月27日
綱島 不二雄氏	(6期)	2022年 3月28日
恵志 泰成氏	(23期)	2022年 4月 8日
青山 正明氏	(4期)	2022年 4月22日
廣岡 幸治氏	(17期)	2022年 5月 8日
上田 義男氏	(13期)	2022年 5月15日
浜田 卓二郎氏	(8期)	2022年 5月16日
村田 一弘氏	(2期)	2022年 6月11日
山崎 正和氏	(34期)	2022年 7月 2日
越智 信利氏	(12期)	2022年 7月 7日
福林 憲男氏	(15期)	2022年 7月 9日
本田 郁二氏	(13期)	2022年 8月14日

謹んでご冥福をお祈りいたします。

次号(第99号)

2023年4月発行予定。

投稿歓迎

同期会、支部会、個人の体験記など投稿歓迎。800～1,200文字程度(+画像)。同窓会事務局宛にメール(または封書)でお送りください。

同期会開催のサポート

同期の連絡先を知りたい方は、同窓会事務局がお手伝い致します。尚卒業後10、25、50年目開催の場合は最大10万円の補助金をサポートいたします。節目の開催がコロナで延期となった場合もサポート対象となります。詳しくは同窓会事務局までお問い合わせを。

登録情報の変更

住所変更など登録情報に変更のある方は、EACONのサイト上でご自身で変更していただくか、同窓会事務局までご連絡ください。

会費納入

①口座振替(推奨)と②コンビニ払いの2通りの方法があります。第1グループ(14～34、38、42、46、50、54、58、62及び66期)の会員と当該グループではないが未納のある会員には、7月に口座振替用紙とコンビニ払い用紙を送付しておりますのでどちらかの方法で納入をお願いいたします。振込用紙の紛失等も含め、会費納入についてご不明な点がございましたら遠慮なく同窓会事務局までお問い合わせください。

編集後記

同窓会誌の編集を担当することになり2号目になります。大雑把が自分の特徴だとすれば、目を行き届かせるといふ編集作業は決して自分に向いているとは思えません。が、そのことは織り込み済みのようで、同窓会の執行部をはじめ多くの方が、よく気付くなあとという部分まで、校正段階で確認と指摘だけではなく提案もしてくれます。本当に感謝ですし、勉強になりますし、何より自分の節穴ぶりが滑稽にもなり。このチーム的な作業を楽しんでいます。

さて、これまでにたった2号にしか関わっていないのですが、次号が99号で、次々号が100号。ただの数字の魔力でしょうが、何やら節目っぽい雰囲気とそれに伴う何かを感じないことはありません。逃げ出したい気分が無いとは言いませんが、皆さんの活発な投稿で救われると思います。

最後に、ついでのお願いになりますが、右ページで紹介しています同窓会名簿EACONの情報の更新をお願いします。ALUMNI読んだら、みんなで更新!

村井基彦(37期)



アンケートフォーム。
今号へのご意見ご感想お待ちしております。

全てのお問い合わせ先

栄光学園同窓会事務局

〒247-0071神奈川県鎌倉市玉縄4-1-1

Tel/Fax: 0467-44-8875

e-mail: admin@eikoalumni.org

EACON 就活・ビジネス・同窓会・趣味などに をもっと活用しよう!

[イーコン：名簿&コミュニティーサイト]



EACONって何?

同窓会会員限定のSNSです。

EACON(イーコン:Eiko Alumni COMMunication Network)は、冊子名簿の代替として、また卒業生同士のコミュニケーションをはかる目的で、2014年に作られました。

[名簿として] 会員情報(職業・連絡先・部活など)の閲覧・検索など

[コミュニケーションツールとして] 会員同士の交流・連絡など



何に使えるの?

就活・ビジネス・同窓会・趣味などで活用できます。

[就活] 希望業界に在籍する先輩にOB訪問したい。 [ビジネス] 栄光OBなら安心して相談できそう。

[同窓会] 長年ご無沙汰している同期と連絡を取りたい。 [趣味] 同じ趣味の仲間を見つけたい。

どうやって使うの?

まずはアクセス! ▶ <https://eacon.alumnet.jp>

※ログインID/仮パスワードをご不明の方は同窓会事務局へご連絡ください。

①ご自身の情報を更新: 最新情報への更新をお願いします。

公開範囲設定可能、メアドはなるべく公開で。仮パスワードの変更をおすすめします。

②使ってみましょう!:

[会員検索] 名前・期・会社・職種・大学・部活など、様々な属性から会員を検索できます。

[グループ検索と参加申請]

期・部活・地域・趣味など、関わりのあるグループや興味のあるグループに参加して交流を深めましょう。



The EIKO ALUMNI Vol.98

[発行日] 2022年10月1日

[発行人] 栄光学園同窓会 山田宏幸 (30期)

[編集・デザイン] 広報部 村井基彦 (37期) 川村貞知 (37期)

[web] 事業部 大須賀喜彦 (39期)

[印刷] 株式会社さんこうどう

[発行] 栄光学園同窓会

〒247-0071 神奈川県鎌倉市玉縄4-1-1 Tel&Fax 0467-44-8875

e-mail: admin@eikoalumni.org



栄光学園同窓会 HP 

<https://www.eikoalumni.org/>



同窓会からの最新情報をお届けします。

栄光学園同窓会 Facebookページ 

<https://www.facebook.com/eikoalumni/>



EACON [名簿&コミュニティーサイト]

<https://eacon.alumnet.jp/>